

## 和仏法律学校講義録

竹井, 耕一郎 / 田代, 律雄 / 鶴, 丈一郎 / 梅, 謙次郎 / 岡  
田, 朝太郎 / 秋山, 雅之介 / 田中, 遜

---

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

6

(号 / Number)

高等科

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

58

(発行年 / Year)

1903-03-27



(明治三十五年十一月四日第三編頒布認可 毎月廿四日五廿六廿八日十月十一日十二日  
十三日十五日十六日十八日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日)

明治三十六年三月二十七日發行

三十六年度 高等科ノ六



和佛法律學校講義錄

第(拾)卷

和佛法律學校

# 高等科第六號目次

- 憲法ノ性質ニ關スル推問並ニ講演.....法學士 竹井耕一郎
- 物權ノ混同ニ關スル推問.....法學士 田代律雄
- 占有權ニ付テノ推問.....法學士 田代律雄
- 親族ノ範圍、戸主及ヒ家ニ關スル推問.....法學士 鶴 丈一郎
- 意思表示ニ付テノ推問.....法學博士 梅 謙次郎
- 留置權ニ付テノ講演.....法學博士 梅 謙次郎
- 犯罪ノ定義ニ付テノ講演.....法學博士 岡田朝太郎
- 犯罪人引渡ニ關スル推問.....法學士 秋山雅之介
- 羅馬法（自四九頁至六〇頁）.....法學博士 田 中 通

報 報 ○最近判例要覽 ○擔任律師ノ變更

090  
1903  
4-6



## 憲法ノ性質ニ關スル推問並ニ講演

竹井耕一郎 耶

本日ハ憲法ノ性質ニ付テ研究セン本問題ヲ研究スルニ際シ之ヲ數問題ニ分テシ順ヲ逐ヒテ論セント欲ス先ツ第一ニ法トハ何ノ之ニ付テハオーストリア氏ハ法トハ主權者ノ命令ナリト曰ヘリ此說ハ適當ナリヤ否ヤ此ハ法ハ主權者ノ命令ナリトハ可ナリ然レトモ其命令ハ如何ナル性質ノモノナリヤヲ説明セザルハ不完全ナリ

講師 此定義ニ據レバ法ハ主權者ノ命令ニ應ジテ作ラレタルヘカラス果シテ然ラバ國際法ハ如何ナル性質ノモノナルヤ此ハ法ハ主權者ノ命令ニ應ジテ作ラレタルヘカラス果シテ然ラバ國際法ハ如何ナル性質ノモノナルヤ此ハ法ハ主權者ノ命令ニ應ジテ作ラレタルヘカラス果シテ然ラバ國際法ハ如何ナル性質ノモノナルヤ此ハ法ハ主權者ノ命令ニ應ジテ作ラレタルヘカラス果シテ然ラバ國際法ハ如何ナル性質ノモノナルヤ

講師 右ノ答ニ付キ一言注意スヘキハ法ニハ制裁ヲ附セタルコトヲ得ルモ必  
ズ強制シ得ヘキモノナラサルヘカラス故ニ嚴格ニ言ハル今日ニ於ケル國際  
法ノ如キハ未ダ十分ニ法ノ性質ヲ備ヘタルモノト謂フヘレ

講師 獨逸ノ成學者ノ如キハ法規トハ其通事件ノ裁則ニシテ處分トハ一事件  
ノ規定ヲリト曰ヘズ此說適當ナリヤ否ヤ

生徒 法規ト處分トハ事件ノ多少ヲ以テ區分スル其要ヲ得タルモノト謂ハ  
サルヘカラス何トナレハ一事件ニ對シテ主權者ノ命令ナレハ法規タルニ  
於テ差支ナケレムナリ

講師 「ボルンバハ」法規トハ或事實ヲ假定シテ法ノ結果ヲ結附タルヲ謂ヒ處  
分トハ事實其モノヲ惹起スヲ謂フト論セリ此說ハ如何

生徒 此說モ亦採ルニ足ラス事實其モノヲ惹起ス亦法規ト云ヒ得タルノ道  
理ナケレナリ

講師 「ラバント」法規トハ人民ノ權利義務ヲ規定シ處分トハ其法規ノ範圍内  
ニ於ケル國權ノ作用ヲ謂フト曰ヘリ此說ハ如何

生徒 此說ニ依リハ國家行動ノ準則ヲ定メタルモノハ法規ト謂フ又得ル

講師 右ノ學說ニ於ケル法規及處分ニ區別ト我國法律所屬法律命令及處  
分ノ區別トハ必ズシモ一致ナサルモノト注意スルモノトハ

講師 第二ノ問題トシテ法モ不文法アルヤ否ヤ問題ヲ決定セズ此問題ニ  
對スル學說次ノ如シ

(イ) 公法ニハ不文法ナシトノ說

(ロ) 公法私法ヲ通シテ不文法ナシトノ說

第一說ハ獨逸學者ノ一派ノ探ル所ノ說ニシテ公法中不文法ヲ認ムレハ國家  
ノ性質ニ矛盾ス何トナレハ法ハ國民ノ意思ナリ而シテ成文法ハ國民ノ意思

カ國家ノ機關ニ依リテ間接ニ發表セラレタルモノニシテ不文法ハ直接ニ發  
表セラレタルモノナリ故ニ公法中ニ不文法アリトセハ國民ノ意思カ國家ノ

機關ニ依ラスレテ發表セラルルニ至リ國家ノ性質ト相矛盾スルモノナリト  
云フニ在リ此說明ハ適當ナリヤ否ヤ

生徒、探ルニ足ラス何トナレハ歐羅巴諸國ハ多ク國民即チ國家ナリト云フノ  
國柄ナリ故ニ不文法ヲ認ムルモ國家ノ性質ト蓋モ相反セズ何故ニ國民ヲ國  
家ナリト謂フカ蓋シ一國ノ實權ハ君主ニモ又其他ノ機關ニモ屬セス畢竟國  
民ニ歸屬スルヲ觀サルヘカラサレハナリ此ノ如ク公法中ニ不文法ヲ認メテ  
ルノ說探ルニ足ラサルノミナラス苟モ主權者ノ命令ナル以上ハ成文ト不文  
トヲ問ハス法タルニ妨ナキモノト謂ハサルヘカラス此說ヲ探ル以上ハ公法  
並ニ私法ノ範圍ニ於テ不文法ヲ認メサルノ說モ亦根底ニ於テ既ニ倒レタレ  
ハ別ニ說明ヲ要セス

講師 第三ノ問題トシテ公法私法ノ區別アリヤ否ヤヲ問ハン此問題ニ付テハ  
學說種種アリ或ハ私ノ性質ヲ有セス總テ公法ナリト曰ヒ或ハ又佛國ノ  
學者中ニハ全ク右ノ反對ニ出テテ法ハ人民ノ權利義務ニ付テ規定セルモノ  
ナレハ總テ私法ナリト曰ヘル者アリ然レドモ元來公法私法ノ區別ハ學者カ  
法ノ研究ニ關シ便宜ノ爲メニ設クルモノナルカ故ニ適當ノ標準ニ據リテ法ヲ  
分テ一部ヲ公法一部ヲ私法ト看做スハ必スシモ不可ナラストス而シテ今公

法私法ノ區別ヲ爲ストセハ其區別ノ標準如何之ニ付テハ左ノ學說アリ即チ  
其第一說ハ公法ハ公益ノ法ニシテ私法ハ私益ノ法ナリトノ說ナリ此法ハ羅  
馬ノ「ウルピア」唱フル所ニシテ廣ク行ハレタル說ナリ其當否如何ハ羅  
生徒此說ハ公益私益ノ區別判明セサルヲ以テ區別ノ標準ト爲スコト能ハス  
是ニ於テカ或ハ直接ニ公益ヲ保護スルモノヲ公法トシ直接ニ私益ヲ保護ス  
ルモノヲ私法ト曰フ者アルモ直接間接ノ區別モ亦明確ナラサルヲ以テ探ル  
ニ足ラサルナリ  
講師 然ラハ權力關係ヲ規定セル法ハ公法ニシテ權利關係ヲ規定セル法ハ私  
法ナリトノ說ハ如何  
生徒 權力關係ヲ規定セル法ニシテ私法トシテ存スル場合アリ故ニ此說ハ事  
實ニ適セサルモノナリ然レドモ此說ハ結果ヲ生スルヲ免レスト信ス蓋シ此說ニ依  
レハ國家統治ノ作用ニテモ權力ノ行使ニ屬セサルモノハ私法關係ト謂ハサル  
ヘカラス又全ク個人的ノ關係ニテモ權力ノ行使ニ屬スルトキハ公法ノ範圍

ニ屬スルコトト爲ルベシ但此ノ如キ説ハ未ダ適當ナクスイテハ公法ノ範圍  
以上ハ法ノ性質ヨリ區別セシトスルヲ說ナリ次ニ法律上ノ實體ニ據リテ區別  
セシトスルヲ學說アリ其第一説ハ曰ク公法トハ人ノ公ノ資格ニ於ケル規定ニ  
シテ私法トハ人ノ私ノ資格ニ於ケル規定ナリト此説ニ從フトキハ先ツ公格私  
格ノ區別ヲ判明セラルヘカラス然ルニ此區別ハ甚タ困難ナリト信ス例ニ國  
家カ公債ヲ募集スル作用ノ如キハ國家ノ公格ニ於テ爲スモノナルカ私格ニ於  
テ爲スモノナルカ學者間ニ異論ナキニ不能ハス  
第二説ハ公法トハ治者被治者ノ關係ヲ規定スル法ニシテ私法トハ被治者間ノ  
關係ヲ規定スル法ナリト云フノ說ナリ此説ニ對シテハ批難ノ聲盛ナルモ全ク  
價值ナキ定義ト爲スコトヲ得ス或者ハ此説ニ依リテ國家ト人民トノ關係ハ總  
テ公法關係ナリト云フノ說ト爲リ曖昧ヲ免レズト曰フト雖モ治者被治者ノ關  
係ト云フハ國家カ統治者トシテ行動スル場合ヲ謂フモノニシテ公法ノ内容ハ  
全ク此ニ存ス故ニ其觀念ハ甚タ可ナリト謂ハサルヘカラス  
第三説ハ公法トハ社會カ一塊トシテノ活動ニ關スル法ニシテ私法トハ社會カ

各分子トシテノ活動ニ關スル法ナリトノ說ナリ此説ハ缺點ハ社會カハ一單位  
トシテ活動スルハ多ク公法上ノ活動ニ屬スト云ヒ得ヘキモ總テ然リト謂フコ  
ト斷ハサルニ在リ例ヘハ國家カ普通ノ契約ヲ爲ス場合モ亦日トシテノ作用  
ナリト云ヒ得ヘケレムナリ合ヘイ

第四説ハ公法トハ國家ト國家國家又ハ公法人トハ私人トノ關係ニシテ普通私  
人間ニ起リ得タル關係ヲ謂ヒ私法トハ之ニ反シテ私人トノ關係ニシテ此説ニ付  
テハ第一ニ國家ト國家トノ關係即チ國際法ト國內法トニ所ニ論スルハ不穩當  
ナラ蓋シ國際公法ナルモノハ名稱ニ於テハ公法ト云フト雖モ所謂國內公法ト  
ハ全ク其性質異ニシテ又普通ニ私人間ニ起リ得タル關係ト異ニシテ  
如何ナルモノナリヤ甚タ不明ニシテ之ヲ以テ區別其標準圖爲スルコト能ハサル  
ナリ  
予ハ左ニ劃テ定義スヘシニ謂フ諸君ハ權利ニ據リテ權利ヲ行使スルモノ  
日公法トハ統治權ヲ本體及ヒ其作用ニ關シテ規定者全體ヲ謂ヒ私法トハ他  
諸臣民等ヲ謂フ公法トハ權利ニ對シテ權利ヲ行使スルモノト謂フ

訴訟法ニ付テハ或ハ公法ナリト謂ヒ或ハ私法ナリト曰ヒ學說區區ナリシモ今日ニ於テハ公法ナリトノ說多數ナリト何故ニ公法ナリト曰ク訴訟法ハ裁判手續ヲ規定セラルモノニシテ即チ統治權ノ運用ヲ規定セルモノナレハナリ尙ホ終ニキルヘンハイムハ論シテ曰ク國家統治ノ事務ニシテ私法上ノ關係ト相似タルモノアリト雖モ之ヲ綜合シテ觀察スルトキハ其公法關係ニ屬スヘキコトヲ知ルヘシト此論ハ國家事務ノ中ニ於テ公法關係ニ屬スルモノト私法關係ニ屬スルモノト區別スル一標準ト爲スコトヲ得ヘシ云々又學說區區内公法ニ次ニ憲法ノ國法上ノ位置ヲ説明シテ以テ本題ヲ結スヘシ云々此等學說當憲法ハ公法ノ一部ナリトハ今日多數ノ說ナリ其中ニ在リテ「ラバント」派ハ所稱行政法ヲ認メス憲法ト國法トハ同一ナリト論ス其他一般ノ學者ハ公法中ニハ憲法行政法刑法訴訟法ヲ含ムト論ス

憲法ノ定義ニ付テモ其說區區タリ或ハ「國家ノ根本法」ト稱シ或ハ「國家ノ第一說」憲法トハ國家ノ直接機關ニ關スル規定ナリト稱シ或ハ「國家ノ第一說」此說ハ大體國家ノ成立ニ缺クヘカラサル機關ヲ直接機關トシ其他ノ機關ヲ

間接機關トシ我國法ニ於テハ天皇ト議會トカ直接機關ナリト爲ス

第二說 統治者ノ定メタル最高ノ政令ナリ

第三說 憲法トハ憲法典ナリ

第四說 憲法トハ統治者カ直接ニ制定シ其改正ヲ爲スニ會議ノ協賛ヲ經ヘキ政令ナリ

此ノ如ク或ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ

憲法トハ國權ノ本體及ヒ運用ノ綱領ヲ規定シタルモノナリ

卷二

*Lex posterior generalis non derogat legipriori special*

[illegible]

人華寶天

法律博士 田村 代 律師 雄  
 法律ヲ撰定家督相続人ハ相續開始前ニ相續上ノ權利ヲ有スルヤ  
 甲生徒徒現實の如何等ハ利益ヲ有セズ隨テ權利ヲ有セズ唯希望ヲ有スルノミ  
 乙生徒徒權利ヲ有ス

講師 權利スレハ相續開始前ニ拋棄スルコトヲ得ルカ如シ然ルニ推定家督  
 相續人ハ拋棄スルコト能ハス然レバ之ヲ以テ權利喪失スルコトヲ得テ効力如  
 シ如何ニハ財產遺贈受遺人ハ遺贈ノ承諾スルハコトヲ得ルコトヲ得ルコトヲ  
 生從 民法上ノ權利ハ拋棄スルコトヲ得ルノ原則トスルモ總テノ權利之ヲ  
 拋棄スルコトヲ得ルモノニ非ス親權ノ如キ是ナリ法定推定家督相續人ノ權  
 利モ亦此拋棄スルコトヲ得ル權利ニ屬スルナリ

講師 遺贈ヲ放棄スルコトヲ得ルハ附屬如何ハセリ

生徒 遺贈明文アリテ遺贈ハ遺贈ノ屬ニ屬スルモノナリ故ニ遺贈放棄ハ遺贈人ノ附屬

講師 民法上ノ權利ニシテ放棄スルコトヲ得ルモノモタルモノハ明文ヲ要スト

モハ法定ノ推定家督相続人ノ權利ハ放棄スルコトヲ得ストノ規定アルヤ若

シアリトモハ親權ト同ニ論スルコトヲ得ヘリ然レハ同ニ論スル

モノト得タルベシ如何ハ附屬ニ屬スルモノモタルモノハ明文ヲ要ス

生徒 明文ナシトモ

講師 然レバ放棄シ得ル權利ニ屬スルモノモタルモノハ明文ヲ要スルモノナリ

生徒 條件附權利ナリトモハ遺贈人ノ權利ニ屬スルモノナリ故ニ遺贈放棄ハ遺贈人ノ附屬

講師 條件附トモハ條件ノ到來スルヤ否ヤハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得タルモノ

ナラサルヘカラス被相続人ノ死亡スルヤ否ヤ等ハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得テ

ル事實ナリヤ

生徒 知ルコトヲ得ルニ關スル疑問

講師 知ルコトヲ得ル事實ヲ以テ條件トスルコトヲ得ルカ

甲生徒 遺贈レヨ期限附權利ナリハ其間ニ因リテ附屬ニ屬スルモノナリ

乙生徒 法定ノ推定相続人ノ相続開始ニ因リテ相続人ト爲ルモノハ其種類ノ權利

ヲ有スルモノナリ

講師 然ラハ期限附法律行為ニ因ル債權者ニ非ズレバ期限ノ到來ニ

因リテ債權者タルコトヲ得ル一種ノ權利ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラテ

ルヘシ果シテ然レバ遺贈人ノ遺贈放棄ハ遺贈人ノ附屬ニ屬スルモノナリ

生徒 法定ノ推定家督相続人ノ權利ハ右ノ如キ權利ニ非ズ又單純ナル希望ニ

モ非ズシテ完全ナル權利ナリ唯期限ノ到來ニ因リテ實行スルコトヲ得ル債

權ヲ有スルモノ

講師 右ノ答大ニ可ナリ然ラハ問ハシ民法第七十九條ニ同一物ニ付テ所有

權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但シ其物又ハ其物

權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此期限ニ在リテ規定應リ例ハ甲オテ

若乙ニ對シテ抵當權ヲ有シ其甲ニ丙ナル法定ノ推定家督相続人ト爲テ假

セヨ其場合ニ於テ甲カ抵當物ノ所有權ヲ得タリ然レバ甲カ對テ乙ノ所有權

ト所有權以下ノ物權ニ同シ人ニ歸スルモノト爲テ所有權以外ノ物權即チ抵當權ハ消滅スルヲ原則トスルモ然レトモ但書規定ニ從テ其抵當權消滅モノハ法定ノ推定家督相続人タル者ノ權利ノ目的タルヲ以テ消滅セズト謂ハサルヘカヲナルカ如シ如何ニモ其權利ハ消滅スル其權利又ハ其權利生徒 然リ第三者タル丙ノ權利ノ目的物ナラバ前ハ消滅セズアルヲ以テ消滅セズ

講師 此ノ如キ場合ニ消滅セズトモ子ヲ有スル者ハ數箇ノ權利カ其者ニ歸スルモ殆ト混同ニ因リテ消滅スル場合ナラバ爲テ非常ニ複雜ナル關係ヲ生シ此條文ヲ設ケタルハ却テ不條理ナルカ如シ元來法定ノ推定家督相続人ハ第三者ト謂フコトヲ得ルヤ一節ハ難クモ其權利ハ消滅セズトモ其權利生徒 然リ第三者以外ノ者ハ總テ第三者ナリ隨テ混同ニ因リテ消滅スルモノ非ス

乙生徒 法定ノ推定家督相続人ハ承繼人ニシテ第三者ニ非ス隨テ第百七十九條但書ニ該當セザルモノナレハ混同ニ因リテ消滅スルナリ

講師 然ラハ第三者トハ何ソハ其權利ニ歸スルモノト爲テ所有權以外ノ物權即チ生徒 第三者トハ或目的物ニ付キ後日ニ至リ利害ノ關係ヲ有スル者ヲ謂フ講師 占有權ニハ混同ノ規定ヲ適用スルヤ否ヤ其權利ハ占有權ニ歸スルモノト爲テ所有權以外ノ物權即チ生徒 適用セズ 其理由如何ニモ其權利ハ占有權ニ歸スルモノト爲テ所有權以外ノ物權即チ生徒 理由ハ占有權ノ性質ニ基クモノニシテ若シ占有權モノノ物權ナルカ故ニ混同ニ因リテ消滅ストモハ占有權ハ常ニ多クノ場合ニ於テ他ノ權利ト併存スルヲ常トスルヲ以テ若シ占有權モ混同ニ因リテ消滅スルモノトモハ占有權ノ保護ハ有名無實ト爲ルヲ以テ第百七十九條第三項ニ於テ前二項ノ規定ハ占有權ニハ之ヲ適用セズト規定セルナリ

占有権ニ付テノ推問

法學士 田代 律 雄

講師 受寄者ハ占有權ヲ有スルヲ以テ、第百八十三條第三項ニ規定スル、  
生徒 占有權ナシ何トナレハ占有權ハ要素トシテ、第百八十三條ニ規定スル、  
ト心素トヲ有セサルハカラサルモ受寄者ノ場合ニハ其心素ヲ欠缺スルモ  
ト期ハサルハカラサルナリ、  
講師 心素即チ自己ノ爲メニスルトハ如何ナル意義ナルカ  
生徒 「自己ノ爲メニスル」ハ利益ノ觀念ヲ伴ハサルハカラス而シテ其利益ハ  
或法律行為ノ結果ヨリ生スル利益ニ非スルヲ其物ヲ占有スルニ因リテ直接  
ニ受クル所ノ利益ナリトス、  
講師 心素ヲ以テ如上解セハ受寄者ニ占有權アリトスヘキヤ

生徒、物ノ使用又許諾所ノ第六百六十六條ノ場合ニ受寄者ニ占有權アルモ其  
他一般ノ寄託ノ場合ニ受寄者ニ占有權アルハ、第百八十六條ノ規定ニテ、  
講師 然ルニ然ラズ、次ニ代理人ハ占有權ヲ有スルヤ  
生徒 自己ノ爲メニスルトハ他人ノ爲メニスルニ非サルモ、他人ヲ爲  
メニスル者ハ占有權ナシ故ニ代理人ハ常ニ本人ノ爲メニスルモノナレハ代  
理人ニハ占有權ナシ、  
講師 丁度、場合及ヒ請負ノ場合ニハ雇人又ハ請負人ハ占有權ヲ有スルヤ  
生徒 雇傭及ヒ請負ノ場合ニハ單ニ勞力ノミテ供給ヲ爲スモノナレハ孰モ  
占有權ヲ有セズ  
講師 第百八十三條ニ代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ  
意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ス「トアリ其意義如  
何」  
生徒 甲水ル所有權者カ其所有物ヲ自ラ占有シ居ル場合ニ之ヲ乙ノ爲メニ爾  
後占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ甲ハ乙ノ代理人ト爲リテ本人ノ爲メ

占有有スルモノハ其付テ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ  
故ニ當初ヨリ必ズ其代運關係ヲ存スルハト要スルモノナラズ故ニ二情  
事師 質權ヲ有スル者ハ占有權ヲ有スルカ

生徒 然ラ有スルモノハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ  
此場合ニ占有者ハ占有權アルコトヲ立證スルノ責任有スルカハハ  
生徒 然ラ有スルモノハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

師 占有者カ占有權アルコトヲ立證シタル場合ニ於テ法律ハ如何ナル推定  
ヲ下スカハ組合員ヨリ推定スルモノナラズハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

甲生徒ニ第百八十六條ノ規定ニ依リ占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意平穩且公  
然ニ占有ヲ爲スモノト推定スルモノナラズハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

乙生徒 然ラ質權者カ質物ヲ占有スル場合ハ所有ノ意思ヲ有セス隨テ第百  
八十六條ノ推定ヲ受ケタルモノトスルモノナラズハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

師 然ラ其間ハ質權者カ占有スル場合ニハ第百八十六條ノ推定ヲ下ナス  
主トノ理由ハ明文根拠ニ依リテ如何ナル論理ニ根據スルカハ其

生徒 明文ノ條ニキモノナレ  
師 然ラ如何ナル理由ニ據テ其推定スルモノナラズハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

生徒 然ラ質權者カ質物ヲ占有スル場合ハ所有ノ意思ヲ有セス隨テ第百  
八十六條ノ推定ヲ受ケタルモノトスルモノナラズハ本人ノ之ニ因リテ占有權ヲ取得スルノ規定アリ

丙生徒 本同ノ場合ニ於テハ第百八十五條ヲ適用シ權限ノ性質上占有者ニ所  
有ノ意思ナキモノナレ第百八十六條ヲ適用セシムル間當然ニ占有者ハ所有ノ意思ヲ有セス隨テ第百

師 然ラ其間ハ質權者カ占有スル場合ニハ第百八十六條ノ推定ヲ下ナス  
主トノ理由ハ明文根拠ニ依リテ如何ナル論理ニ根據スルカハ其

101

シモ惡意ナルニ非ス又法律カ惡意ノ占有者トシテ效力ヲ對與スルニ非サ  
ルヲ以テ自己カ善意ニ占有セハ則チ善意ノ占有者タルコトヲ失ハサルモ  
ナリ  
講師 占有ノ效力トハ何シヘ古來ノ法ニ據ルニ善意ノ占有者ハ其ノ權利ヲ  
生徒 占有ナル事實ニ法律カ與ヘタル效果ヲ開クナリ  
講師 果實ヲ取得スルハ占有ノ效力ナルカ

生徒 然リ占有ノ效力中ニナリ

講師 占有者ハ總テ同一ニ果實ヲ取得スルコトヲ得ルカ否ヲ問フニ依リ  
生徒 否 善意ノ占有者ト惡意ノ占有者トニ依リ其效力ヲ異ニス

講師 其效果ハ如何ニ異ナルカ又其理由如何  
生徒 善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生ズル果實ヲ取得スルハ占有者ハ自己ニ其

ノ權利アルモノト信シ費消スル場合多カルヘキニ後日ニ至リ返還ノ義務ヲ  
負ハシムルハ甚テ酷ナリ又真正ノ權利者ニ於テモ自己ノ物ヲ他人ニ放任シ

テ權利ヲ行使セサルノ怠慢ヲモ存スルヲ以テナリ又惡意ノ占有者ハ其ノ

惡意ノ占有者ハ果實ヲ返還スルハ責任アルモノトス是レ其權利ハ他人ニ存  
スルコトヲ知テ或ル處ニ拘ハラス占有シタル者ナレハ當然ナルモノトス

講師 第百八十九條ノ果實中ニハ法定果實ヲ包含スルヤ

生徒 包含セズ

講師 占有物ヲ賃貸シタル場合ニ於テハ其賃借料ハ一種ノ果實ニシテ之ヲ法

定果實ト謂フニ明白ナルモ此果實ハ占有物ヨリ生ズルモノニ非スシテ賃  
貸借關係ヨリ生ズルモノニシテ占有物ノ果實ト謂フコト能ハサルカ如シ如

坐何

生徒 第百八十九條ヲ所謂果實中ニハ法定果實ヲ包含セズ天然果實ノミヲ指

稱スルモノナリ

講師 本條ノ「果實」ハ何等ノ制限ナキヲ以テ天然果實ハ勿論法定果實ヲ指シ包含  
スルモノト解スヘキカ如シ而シテ前同賃貸關係ヨリ生ズル賃借料ニ外ナ

ラスト雖モ此賃借料ハ占有物ヲ生ズルモノト見ザレハ仍ホ占有物ヨリ生ズ  
ル果實ト謂フコトヲ得ルモノナリ

親族ノ範圍戶主及七家ニ關スル推問

親族ノ範圍ハ戸主及七家ニ關スル推問ニ依リテ定ムルモノナリ。法律學士吳鶴、律師大友一耶、同合

歸師 親族トハ何ナキ親屬關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 六親等内ノ血族三親等内ノ姻族及ヒ配偶者ヲ謂フ

歸師 血族トハ何ナキハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 同一ノ祖先ヨリ出タル者ヲ謂フ古語ニ據テ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 六親等以外ノ血族ハ親族ニ非ス。其親屬關係ハ一層ノ果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 民法上親族關係ナシ

歸師 姻族トハ何ナキハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 配偶者ノ一方ノ血族ヲ謂フ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 妻ノ兄弟ハ何親等ノ姻族ナル實情ニ依リテ、民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 二親等ノ姻族ナル實情ニ依リテ、民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 妻ノ兄弟姉妹ノ配偶者ハ如何

生徒 姻族ナリト信スルモノナリ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 然レハ何親等ノ姻族ナル實情ニ依リテ、民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 二親等ノ兄弟姉妹ノ配偶者ハ如何

歸師 然ラハ其親等ハ如何ニ計算スルモノナリ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 民法第七百二十六條ニ依リテ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 然レトモ妻ノ兄弟姉妹ノ配偶者ハ通例妻ト同始祖ヨリ出タルモノナ

レハ同條ニ依リテ算定スルモノナリ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

生徒 然ラハ其親等ハ如何ニ計算スルモノナリ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 妻ノ兄弟姉妹ノ配偶者ハ親族關係ナシ何トナレハ姻族ハ配偶者ノ一方

ノ血族ニ限ルモノナリ。民法上ハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指

歸師 配偶者トハ何ナキハ、血縁關係中ニハ、血縁果實ニ因合チテ天然果實ノミヲ指





（キ）理由ナク又其必要ナクシテナリ。……同一ノ縁組關係ヲ主トシテ  
講師 民法第七百二十九條第二項ニ生存配偶者其家ヲ去リ去ルト亦同義ト  
トアリ如何ナル場合ニ謂ハルカ。……  
生徒 生存配偶者其家ヲ去リ去ルト又ハ婚姻等ニ因リテ他家ニ入リタル場合ナリ  
講師 實家ニ復籍シタル場合ニ如何。……  
生徒 其場合モ包含スル。……  
講師 何等ノ條件ヲ要セスシテ生存配偶者ハ隨意ニ他家ニ入リ又ハ實家ニ復  
籍スルヲ得ヘキヤ。……  
生徒 民法第七百四十一條及ヒ第七百三十七條等ニ依リ各相當ノ條件ヲ要ス  
講師 姻族關係ハ第七百二十九條以外ノ原因ニ由リテ止ムコトヲ得ル  
生徒 同第七百三十條第二項ノ原因アリ。……  
講師 戸主トシテ如何ナル地ナシヤ。……  
生徒 家族ノ主宰者ナリ。……  
講師 然ラハ家族ヲ始メテ戸主ナリヤ。……

生徒 然ラハ家ノ主宰者ナル意味ナリ。……  
講師 家トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ。……  
生徒 家籍ノ所在ヲ謂フ。……  
講師 元來家ナル觀念ハ其由來スル所甚タ遠ク昔時ニ在リテハ家ヲ重シタル  
コト今日比ニ非スト雖モ如何ナルモノヲ以テ家トスルカニ至リテハ頗ル  
漠然ノ感ナクシテ非ス然レトモ概シテ之ヲ言ヘハ廣狹二義ニ出テタルカ如  
シ即チ廣義ニ於ケル家トハ素ト同一ノ家ニ屬シタル者カ分レテ數家若クハ  
數十家ト爲リタル後ト雖モ之ヲ合セテ一家ト謂フ尙ホ源家平家ト云ハシカ  
如シ民法ニ於テモ本家分家ノ關係ヲ認メタルニ非スト雖モ其所謂家トハ新  
ル廣義ノ家ニ非サルナリ狹義ニ於ケル家トハ一戸主ノ統率スル家族團體ヲ  
謂フ單身分家シタル家ヲ創立シ又ハ家族悉ク死亡シテ戸主一人ト爲リタル  
トキト雖モ之ヲ爲メ家ノ存在ヲ妨グサル所以ニモノハ此場合ニ於テ事實  
上家族團體ナシト雖モ仍ホ想像上此團體ヲ認メタルモノト謂ハサルヘカラ  
ズ而シテ民法ニ所謂家ハ即チ此狹義ニ於ケル家ヲ謂フ故ニ家トハ戸主ト事

實上又ハ想像上ノ家族ノ團體力ヲ解釋ハテ隨テ事實上家族才ヲ適合ト聯  
ノ屬ヨリ戸主アルコトヲ妨ケザルカ  
講師 民法第七百三十二條「戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者若シ其配偶者  
之ヲ家族トストマテ其配偶者トシテ如何ナル者ヲ附カバ主」ハ從價ノ  
生徒 戸主ノ親族ノ其配偶者ヲ附ク元來戸主ノ親族ノ配偶者ハ常ニ戸主  
族ニ非ラ故ニ戸主ノ配偶者ヲ家族ト爲スノ意ナリ例ヘバ戸主ノ從兄弟ノ  
族ナラトモ其配偶者ハ親族ニ非ラモ仍ホ家族ト爲ル如キモノハ從價ノ

意恩表示ニ付テノ推問

法學博士

梅

謙次郎

講師 法律行為トモ如何ナル意恩表示ニ付テノ推問

生徒 民法法律行為ノ私權ニ關スル法律上ノ效果發生ノ點ハ意恩表示ヲ以  
生徒 民法第七百三十二條「戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者若シ其配偶者  
之ヲ家族トストマテ其配偶者トシテ如何ナル者ヲ附カバ主」ハ從價ノ  
生徒 戸主ノ親族ノ其配偶者ヲ附ク元來戸主ノ親族ノ配偶者ハ常ニ戸主  
族ニ非ラ故ニ戸主ノ配偶者ヲ家族ト爲スノ意ナリ例ヘバ戸主ノ從兄弟ノ  
族ナラトモ其配偶者ハ親族ニ非ラモ仍ホ家族ト爲ル如キモノハ從價ノ

生徒 法律行為ニ違ナイデセウ

講師 意恩表示トハ何ナコトゾスルモノナラバ其家ニ在ル者若シ其配偶者  
生徒 意恩表示ト申シマスルモノハ一ツノ行為ニ付テ自分ノ欲スル希望ヲ他  
ニ通ズルノ方法ゾスルモノ  
講師 例シテ私利或法律上ノ效力ヲ目的トシテ他人ト契約ヲ結バウト  
云フ考ガアル其場合ニ意恩表示ヲスルト云フハ私ノ意思ヲ手紙ニ書キテ  
シテ之ヲ送ルモノゾレデ意恩表示ハアツタモノト云フモノゾレデ

生徒　少ウ貴エナ居リマス  
教師　其レハ少シ記憶違ナヤウヌ日本ノ法律デハ原則トシテ其レガ相手方  
ニ到達シナクレバイカスト爲ラ居ル唯其レニ例外ガアルガ其レハ知リマセ  
ルガ此君貴國ノ憲ヤト云フ

生徒ハ詰リ法律行爲デゴザイマスカラ或書面ナラ書面ニ付テ自分ノ爲スベキ  
範圍ヲ爲セテ宜シキ類ヲ屬テ書面ナラ或ハ辨詰者間ハ場合ニ依テ通

講師 其レハドウ云フ云トゾス、ハナミエイ云テテ、ス。

成立スルニ至リテハ其意ニ非ザルコトヲ知テ意思表示ヲ爲シテ場合ヲ

尾張 遠藤渡部 付アノ雜司 二三

思表示ニ爲リマスカ

テラヌ、書面が向フニ届カチカレバナラヌト云フモノデスカ

「サウズルト云ラド相手方ヲナル法律行為ニ付テハ其意思表示ハ相手方

フチイ行爲ニ付テハ唯自分デ書面ヲ作テ筆跡ノ抽斗ニ入レテ直イテモ救ヲ

別三孝紙ヲ撰メタマシタマヒテ意思表示ニ成立天啓ノ友ヲ思フ事ニ

講師 意思表示ト云フト意思ガ必要デズルガ其之スルト意思表示ト云フ場合

子、法律上效力ノアル意思表示ト商事者ノ意思ト云フモノハイマ合ハル所

生徒は普通の場合にハ合シテ居ルが、食料の多寡と法律上效果ヲ奏スル場合ガ

其レハドウ云フ場合デネ、ヤロクニテハ、  
タカイコトヲ知ル方ガ見解ガ

其レハドウ云フ場合デス

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

[illegible]

サラスルト表意者ノ真意デナイコトヲ知ラナケレバ效ヲ持ツト云フノ

講師 (他ノ生徒ニ對シ今ノ場合ハドンナ場合デス

講師 無關係ノ人ガ金時計ヲ與セテ云フ場合ニテ下ラウテ表示イ云々場合

前レナイト思ハレルヤウナ場合ナラ宜イダラウト思フ

場合ハ下シナ場合デスモ









フ積リテ間違ヘテ他ノ人ニ頼ンダ、サウ云フハ法律行為ノ要素ニ錯誤ガアルト云ヘマスカ例ヘハ橋本ト云フ畫工ガアタ其レハ名高イ雅邦デアラウト思フ類ンダ後デ調ベテ見ルトツマシキ畫工デアタヤウナ場合ハドウデス生徒 其場合ニハ何ノ某ト云フバカリデナク何ノ某ノ畫ト云フコトガ必要デアル橋本雅邦ト云フモノガ要素ニ爲ルハ誤リ也

歸師 其場合ニハ當事者ガ要素ニ爲ルハ誤リ也ハスカ、目録ニテハ當事者生徒 左様デセザイマス、強ヒテ申シ置キ云フト當事者ニ錯誤ガアタヤウ其橋本雅邦ト云フ人モ矢張一ツノ目的ト云フコトガ出來マス

歸師 通常ノ學者ハ當事者ノ錯誤ト云フ居リマスガ私共ハ純然タル目的ノ錯誤デアルト思フ、契約ノ當事者ハ橋本雅邦ヲ畫ト云フコトデアタヤウ畫ヲ書ク人主ガ橋本雅邦デナイノデ、橋本雅邦ノ描キタルモノニ爲リマセスカラ純然タル目的ノ錯誤デアラウヲ思フ、サウ云フモノハ法律行為ノ要素ノ錯誤ト云ヘマスガ要素デナイモノデモ例ヘハ期限ニ付テ錯誤ガアタ私ノ方デハ一年ノ後ニ履行スベキ積リテ居ルサウスルハ相手方デハ一个月ト聞キ違ヘタ、サウ

云ストキハ前例デス、銀ヘ借金デ借ルハ期限デ買取ルハ期限デモ何デモ宜シイ私ガ一年ノ後モ支拂フカス金、一萬圓貸シテ呉レト云フ提供シタ其レモ對シテ相手方モ宜シイト云ウタガ併ナガラ其レハ一个月ノ積リテ宜イト云フタト云フ證據ガ事タ其レハドウデス

生徒 矢張其場合ニハ要素ト考ヘマス

橋本雅邦

歸師 サウスルト目的ノコトモアリ當事者ノコトモアリ期限ノコトモアリト云フノデス、シテ履行ノ場所ニ付テ錯誤ガアタラドウデス、東京デ履行スル積リデアタ、サウ云フ風ニ申込ノ方デハ意思ヲ表示シタ、所ガ相手方ノ方デ間違ヘテ大阪デ履行スルト思フ承諾シタト云フヤウナ場合ハドウデス承諾ノ方ノ意思表示ハ錯誤ニ因テ居ル其レモ矢張要素ノ錯誤デスカ

生徒 答へテ、歸師 橋本雅邦ト云フモノガ要素ニ爲ルハ誤リ也ハスカ、目録ニテハ當事者生徒 其レハ要素ト云フナイヤウデス、履行ノ時トカ履行ノ場所トカ云フモノハ法律行為ノ附隨事項デスカラ要素トハ視テモ誤リ也、併ナガラ條件附ト無條件ハ無論要素デアルト思フ、能ク學者モ依テハ體裁ノ錯誤ハ要素

留置權ニ付テノ講演

謙次郎

大正九年四月

1 ml l

羅馬ノヤウニ登記ト云フモノガナシテ不動産ノ所有權ヲ移轉スル原  
則トシテ動産ガモ不動産ガモ引渡ヲ要スルト云フ主義ヲ取テ居ル國ナシテ失  
物權ナラザル留置權ガ十分ノ效力ヲ有スルモノト爲ル併シ今日デハ不動産  
ニ付テハ物權ナラザル留置權ハ至テ薄弱ナ權利デアレケレドモ動産ニ付テハ  
今日デモ矢張留置權ガ經令之ヲ物權トシテ認メテ付テモ實際ニ相當ノ效力ヲ  
持ツコトニ爲ル其譯ハ御承知ノ通り動産ニ關スル權利ノ移轉ハ引渡ニ因テ爲  
ス否第三者ニ對抗スルニハ引渡ヲ必要トスル其レ故ニ第三者ガ何人モ對抗  
シ得ベキ權利ヲ動産ノ上ニ取得セントスルニハ勢ヒ留置權者カラ物ヲ取返シ  
テテウシテ之ヲ第三者ニ引渡シタ後デナケレバナラズ經令動産ノ所有權ヲ買  
取者ガアラモ引渡ヲ受ケルマデハ私ハ買主デゴザルト云テ留置權者ノ處ニ請  
求ニ行ク譯ニハイカスデスカラ動産ニ付テハ經令之ヲ物權トシテ認メテ付テ  
モ相當ノ效力ニアリマス云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
向ホ動産不動産ニ通ジテ言ハバ債務者ノ入用ナル物デアアルナラバ債權者ガ之  
ヲ留置シテ居ラハ大ニ不便ヲ感ジマスカラ自然ニ速ニ辨濟ヲ爲スト云フコト

ニ爲ルンデ此點ハ今日デモ不動産ニ付テモ猶ホ存スル所ノ效力デアアル去テガ  
ラ私共ノ信ズル所デハ留置權ヲ認ムルコトヲ必要トスルナラバ序ニ之ヲ物權  
トシタ方が宜シイ現ニ不動産ニ付テハ物權トシテ居ラナケレバ殆ド有名無實  
ノ場合ガ多イ之ヲ物權トシテ認メテ置イタモ若シ債權ノ範圍ヲ適當ニ制限ス  
ル以上ハ別ニ弊害ハナカラウト思ハレマス我民法ノ規定スル如クシバ其債權  
ト留置物トノ間ニハ密著ノ關係ガアルザウシテ概シテ之ヲ言ハバ金額ハ少イ  
例ヘバ物ノ修繕ヲ爲シタ者ガ修繕費ニ付テ留置權ヲ持ツナドト云フ場合動産  
ヲ占有シテ居ル者ガ其動産ニ食料ヲ與ヘタト云フヤウナ場合斯ウ云フ場合ニ  
ハ其債權額ハ物ノ價額ニ較ブレバ極タ少額デアリマス然ラザル場合例ヘバ買  
買ノ場合ノ如キハ是先取特權モ與ヘテアル解除權モ與ヘテアル位ノ場合デ  
アリマスカラ金額ハ物ノ價ト略同シイデアリマセウガ決シテ不當トハ云ヘナ  
イ其レヲ與ヘストテ他ノ方法デ矢張代價ノ辨濟ノ終ルマデハ債務者即チ買主  
ガ完全ナ權利ヲ得タモノト思フ譯ニハイカス其レ故ニ我民法ハ物權說ヲ採ラ  
ガラテ此留置權ノ範圍ニ付キヤシテハ各國其規定ヲ異ニシテ居ル我法律デモ

民法ト商法トハ既ニ規定ガ異ナリ居ル、先ヅ民法ノ留置權ヲ申シテマズルト、第一ノ條件ガ留置權者ハ他人ノ物ノ占有者デナケレバナラズ、民法ハ債務者ノ所有物トハ申シマセズ、他人ノ物ト云フ居ル故ニ第三者ノ所有物デモ稱ハス例ハ他人ノ物ヲ借りテ居ル人ガ其借用物ノ修繕ヲ或人ニ頼ム、其修繕費ト云フモハ留置權ニ依テ保護サレ、即チ其修繕ヲ爲シタ者ハ修繕費ヲ支拂ヲ受ケルマデハ其物ヲ留置スルコトガ出來ルガ債務者ハ所有者デハナイ、其債主デアル、サウ云フ場合ニモ我民法ハ留置權ヲ認メテ居ル、  
ソレカラ第二ニハ其債權ハ物ニ關シテ生ジタルモノデナケレバナラズ、即チ先刻以來例ニ出シマシタ物ノ修繕ノ費用、是ハ物ニ關シテ債權ガ生ジタ居ル、其他物ノ保管ノ費用、是モ物ニ關シテ生ジタ居ル、賣買ノ場合ニ於テハ代價ト云フモノハ賣買ノ目的物ニ關シテ生ジタ居ル、其賣買ノ目的物ヲ買、タラ代價ヲ拂フ債務ガ生ズル、其他委任契約ナドデ委任ノ履行ニ因テ占有シタル物或物ヲ買、タレト頼マレテ買、テ來タ、其レハ委任ノ履行ニ因テ占有スルモノデアル、其レト委任契約ノ結果デ受任者ガ立替ヘタモノ例ヘバ今ノ場合デ云フト代價デス、其レ

ハ買主トシテ請求權ヲ持テ居ルノデハナイ、立替金ノ償還ヲ求ムル權利ヲ持テ居ル、其レハ代價ノ全部デモ一部デモ宜イ、例ヘバ大凡百圓位スルモノヲ買、テ來タ與レト云、テ百圓渡シタ、其レガ足ラナクテ十圓受任者ガ立替ヘテ置イタト云フコトガアル、是ハ物ニ關シテ生ジタル債權デアル、其他此類デアリマス、此點ガ各國ノ立法例ノ大變異ナル所デス、我法律デモ商法ト民法デハ此點ガマルデ違フ

ソレカラ第三ニハ債權ガ辨濟期ニ在ラチバナラズ、マダ辨濟期ノ來ナイ債權ノ爲メニ留置權ヲ行フコトハ出來ナイ、是ハ尤ナコトデス、辨濟期ノ到來スルマデハ請求ヲ爲スコトガ出來ナイ、請求シテ見スケレバ債務ノ履行ガアルカゴイカ分ラナイ、債務者ガ任意ニ履行スルノニ留置權ナドヲ與フル理由ハナイ、其レハ期限ニ至テ見スト分ラズ、期限ノ到來シナイ中ニ半年ノ後、一年ノ後ニ支拂ヲ受ケベキモノガアルカラト云フノデ或物ヲ留置シテ置キ、サウスレバ債務者ノ方デ其物ガ入用デアル場合ハ勢ヒ期限前ニ支拂ヲシナケレバナラズヤウニ爲ル、間接ニ期限前ノ支拂ヲ強フルヤウナ結果ニ爲ル、サウ云フヤウナコトハ不公平

デスカラ法律ハ認メナイ  
第四ニハ物ノ占有ガ不法ニ始テハナラス、ソレデスカラ惡意ノ占有者ハ留置權ヲ持テヤセズ、幾ラ物ニ付テ必要費ナリ有益費ナリヲ掛ケマシテモ其償還ヲ求ムル權利ハアルガ留置權ハ持テヤセズ、況ヤ詐欺強迫等ノ結果デ占有ヲ得タ場合ニ於テハ一切留置權ト云フモノハ持テヤセズ

以上ノ條件ト云フモノハ元來留置權ヲ與フル根本ノ目的カラ割出シタモノデアル、留置權ヲナゼ與フル、詰リ當事者ヲ公平ニ保護スルト云フノデアル、一ツノ原因デ甲ハ或債務ヲ負ウテ居ル、乙ハ其物ニ對シテ或物ヲ返サセバナラヌト云フ義務ヲ持テ居ル、其義務ハ積極ノ義務デアルコトモアリ消極ノ義務デアルコトモアル、此場合ニ法律ハ成ルベク雙方ガ義務ヲ盡スヤウニシナケレバナラヌ、然ルニ若シ此留置權ヲ與ヘテ盡カナイトドウ云フ結果ニ爲ルカト云フト、甲ハ辨済スベキ物ヲ辨済シナイニモ拘ハラズ乙ハ他人ノ物ヲ返サセバナラヌ、其レヲ返シテ仕舞フト容易ニ取レナイコトガアル、ソレデハ法律ノ保護ガ偏頗ニ爲ル、ソレデアルカラ留置權ヲ與ヘテ一方ガ義務ヲ盡スヤデハ一方ハ義務ハ盡サ

ヌデ宜イト云フコトニスルノデアアル、此規定ハ彼ノ雙務契約同時履行ノ規定雙務契約デハ一方カラ其履行ヲ提供スルマデハ他ノ一方ニ於テモ履行シナクモ宜イト云フコトガアル、其規定ト精神ヲ同シウシテ居ル又不履行ニ因ル契約ノ解除ノ規定ト同様デアル、一方ガ其義務ヲ履行シナイト云フトキハ他ノ一方ハ契約ヲ解除シテ、サウシテ己ノ義務ヲ免ルルコトガ出來ル、既ニ給付ヲ爲シタレバ其給付ヲ取返スコトガ出來ル、其レガ矢張公平ヲ旨トシテ居ル所デアアル、ソレデスカラ佛蘭西ナドデハ留置權ニ關スル一般ノ規定ト云フモノハナイ、ソレデ種種ノ議論ガアリヤスガ或學者ハ不履行ニ因ル解除權ガ即チ暗ニ留置權ヲ認メタモノデアアルト云フ説ヲ吐ク位デ、此ニツノ權利ハ全ク同一ノ精神カラ出テ居ル故ニ制限ガ必要デアル、債權ト留置物トノ間ニ密著ノ關係ガナケレバナラヌ、ソレカデ期限ノ滿チイ中即チマダ義務ヲ履行ヲ爲スベキ時期ガ來テ居ラヌ、其トキモ留置權ヲ與フルコトニ爲ルト別ニ不履行ノ責ノナイ者ニ向テ自己ノ受取ルベキ物ヲ受取ル權利ヲ認メヌト云フコトニ爲テ却テ不公平デアアル、不法行為ニ因テ占有ヲ爲シタル者ハ保護シナイ何トナレバ其レヲ保護スルノハ却

ヲ不公平ニ爲ル皆シヨカラ割出シタモノデアリ。其ハ新様ニ範圍ヲ制限スル以上ハ私ハ之ヲ物權トシテ認メルノガ最も適當デアルト考ヘル所ガ此外ニ商法ノ留置權ト云フモノガアル間ク所ニ據テ見マスト先年文官高等試験ノ問題トシテ出タナリデス。兎ニ角留置權ノ研究ヲスルトキニ於テハ民法ト商法トヲ併セテ研究シナケレバナラス。商法ノ留置權ト云フモノハ條件ガマルデ違フ。或意味ニ於テハ民法ノ留置權ヨリ範圍ガ廣イ。即チ其廣イト云フ點ハ債權ト占有物トノ間ノ關係ヲ必要トシナイ。其點ガ民法ノ留置權ヨリ非常ニ範圍ガ廣イデスカラ一定ノ人ト或他ノ人トノ間ノ債權債務ノ關係ガアレバ留置物トハ何等ノ關係ナクテモ宜イ。ソレデスカラ先程申上グタ第二ノ制限ト云フモノガ商法ニハナイ。其代リ又他ノ點ニ於テ範圍ガ非常ニ狭イ先ヅ先刻ノ第一ノ條件ニ付テ云テ見ルト民法ノ方ハ債務者ノ所有物デナクテモ宜イト爲テ居ル所ガ商法ハ債務者ノ所有物デナケレバナラス。此點ガ商法ノ方ガ狭イ。是ハナクナクテハナラス。民法ノ方ハ債務トノ關係ヲ必要トシテアルカラ其物ハ債務者ノ所有物デナクテモ宜シイ。サキ例トシテ申上グタ借主ガ其借用

物ノ修繕ヲ第三者ニ頼ンダ。此場合ニ其第三者ハ修繕費ニ付テ留置權ヲ持ツ。是ハ決シテ不公平ナコトハナイ。其修繕費ト云フモノハ間接ノ失張所有者ノ利益ト爲テ居ル。ソレデスカラ新様ニ債權ノ範圍ヲ限ラレバ物ノ所有者ノ方ハ制限ガイラス。所ガ商法ノ方ハ債權ニ少シモ制限ガナイ。制限ガナイト云フハ不正確デアルガ兎ニ角物トノ關係ヲ必要トシテ居ラス。其レ故ニ債務者ノ所有物ト限ラセカスト縁モニカリモナイ。第三者ノ所有物マデモ留置サレタマフタモノデハナイ。ソレデ勢ヒ債務者ノ所有物ト云フ制限ガ必要ト爲ルソレカラ第二ニ債權ニ付テ民法ノ如キ物トノ關係ト云フ制限ハナイガ其代リ他ノ制限ガアル。其レハ大變窮屈ナ制限デアアル。先ヅ其債權ニシテ商人ト他ノ商人トノ間ノ債權デナケレバナラス。商人ヨリ商人ニ對スル債權デナケレバナラス。第二ニ其レガ雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因テ生ジナケレバナラス。私ガ小賣店ニ行フ物ヲ買フ假ニ私ガ商人デアッタ所デ私ノ入用物ヲ買フト云クナラバ私ノ爲メニ商行爲ト爲ラス。又百姓ガ自分ノ作ラズ米穀若シテ蔬菜ヲ商人ニ賣ルト云フ場合ニ假ニ此百姓ガ商業ヲ兼サテ居ツタ。其點カラ云フ。商人デアツタモ自己ノ

作タ物ヲ賣ルト云フトモ、商人行爲デナイ、買フ方ハ商人行爲デスケレドモ、ウウ云フモノハイケナイ、ウウ云フ債權ハ留置權ニ使テ保護セラルベシ、雙方ノ爲メニ、南行爲デナクレバナラス、即チ卸賣商ト小賣商トノ間ノ債權ノ如キハ是ハ雙方ノ爲メニ、商人行爲デアル、ソレカラ成ル製造者、製造業モ、商人行爲デアル、製造者ガ其製造品ヲ商人ニ賣ル、小賣商人ナリ、卸賣商人ナリ、賣ル、此場合モ、雙方ノ爲メニ、商人行爲デアル、ソレカラ少シ趣ヲ異ニシテ居ルモノヲ申上ケマス、商人ハ商業上ノ必要ニ因テ買入レル消費物ノ場合、毎星期買フトカ煙草ヲ買フトカ、ウウ云フモノヲ買入レルモノモ、商人行爲デス、賣ル者ノ爲メニハ無論、商人行爲デス、總チウウ云フモノガ雙方ノ爲メニ、商人行爲、ウウ云フ行爲カラ生ジタ債權ガナクレバナラス、ソレカラ最後ノ占有ノ原因ニ付テ民法ノ方ハ雖不法行爲ニ因テ占有シタ場合、ハイカニカ、其他ノ場合ハ宜イトアル、所ガ商法ノ方ハ是モ他ニ制限ガアル、其ハハ矢張、商人行爲ニ因テ占有ヲ得タイ、オケヒバオラス、留置權ニ因テ擔保セラレ、此債權者、商人行爲カラ生ジタ居ル、ガデ、イカニカ、是モ其留置物ハ占有ガ矢張

商人行爲ノ結果デナクレバナラス、此方ハ其代リ、雙方ノ爲メニ、商人行爲デナクテモ、宜イ、此制限ニ因テ見ルト、商人ガ商業上ノ結果デ品物ヲ人カラ預ル例ハ、同屋ガ委託販賣ヲ致ス場合ニ、他人ノ荷物ヲ預ル、ウウ云レバ、其物ニ付テ運賃其他ノ立替ヲシタトカ何トカ云フ、其物ニ關シタ債權デナクテモ、全ク縁故ノナイ、他ノ債權デモ、宜イ、ソレガ雙方ノ爲メニ、商人行爲タル行爲カラ生ジタ債權デアルナラバ、其レノ辨濟ヲ受ケルマデ、其委託ヲ受ケタ商品ノ留置ヲ爲スコトガ出來ル、或ハ見本トシテ送テ來タ其物ハ、留置權ニ依テ擔保セラレタ居ル債權トハ何等ノ關係ガナクテモ、宜シイ、斯様ナ制限ガアル、商法ノ方デハ、或點ニ於テハ、民法ノ制限ヨリ範圍ヲ廣クシ、或他ノ點ニ於テハ、民法ヨリ範圍ヲ狭クセルト云フノモ、亦理由アツタ斯様ニ爲テ居ル、是ハ商人間ノ信用ヲ助ケル爲メデアル、商人間ニ在テハ、普通人ノ間ヨリモ一層信用ガ發達シテ居ラナクレバナラス、其レガ爲メニ、ハ若シ違約ヲスルヤウナ商人ガアツタナラバ、相手方ノ方デ何デモ構ハス、商業上手ニ這入テ物ハ皆留置スルト云フヤウナコトニシテ保護シナクレバナラス、斯ウ云フ點カラ出テ居ル人ニ因テハ、民法ノ留置權ト商法ノ留置權トマルデ別

留ノ如ク説キマスケレドモ其レハ間違テ居ル歐羅巴ノ沿革ニ無論民法ト商法  
ハ簡簡ニ發達シタモノデアル併ナガラ今日ノ法律ノ進シタ世ノ中ニ爲ラ來テ  
古ノ沿革ニ拘泥スル譯ニハユカナイ況ヤ日本ニ於テハナウ云フ沿革ハナイ  
歐羅巴ニ昔ナウ云フ沿革ガアタカラト云フ其レヲ襲フ譯ハナイ故ニ日本ノ  
ハ全クソレノ理由アラフ規定シタモノデアラフ即チ民法ノ留置權ニ對スル例  
外デアアル例外ト云フノハドウ云フ意味ニ於テ例外デアアルカト云フト民法ニ定  
メタ留置權ハ何人ニ對シテモ持ツ所ガ只今後ニ申上グタ條件ノアル場合ニハ  
民法ノ留置權ノ外ニ尙ホ又留置權ヲ持ツ民法デハ留置權ノ與ヘナイ場合ニハ  
亦留置權ヲ持ツ故ニ之ヲ二ツ合ハシテ見ルト商人ガ留置權ヲ有スル場合ハ非  
商人ガ留置權ヲ有スル場合ヨリ多イト云フコトニ爲ル併ナガラ其留置權ノ性  
質ニ至テハ異ナルノデハナイ效力如何ト云ヘバ總テ民法ニ依ルンデ商法ニハ  
之ヲ規定シタナイデスカラ留置權ノ生ズル場合ハ違フケレドモ一旦生ジタ以  
上ハ其效力ハ同じコトデアアル其レ故ニマールデ民法ノ留置權ト商法ノ留置權ト  
違フト思フト大キニ間違フ尙ホ法文ノ上ニ於テハモウ一ツ違フコトガアルヤ

ウニ見エマスケレドモ是ハ本當ハ違ニ爲ラス商法ニハ但書ガアル但別段ノ意  
思表示アリタルトキハ此限ニ在ラステアル民法ニハナウ云フ規定ガナイソレ  
デ民法デハ別段ノ意思表示ヲ許サヌノデアアルカト云フ疑ガ起ル是ハナウデハ  
アリマヘス民法デモ留置權ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スルコトハ無論出來ル別段  
ノ意思表示ト云フノハ即チ其レナシデアアル別段ノ意思表示ガアレハ留置スル  
コトガ出來ナイトアルカラ論リ留置權ノ全部又ハ一部ノ拋棄デアアル其レハ商  
法バカリデナイ民法デモ無論出來ル去ナガラ實際民法デハナウ云フコトハ先  
ヅナカラウト思フ債權ガ物ニ關シテ生ジタ場合ニ限ラアル時計ヲ修繕ニ遣ラタ  
ナウシナ言フニハ此時計ヲ直シタ與レタラ幾ラノ修繕料ヲ遣ラウ其修繕料ヲ  
遣ラナクトモ留置權ハ行フタ與レルナト云フ譯ガナイサウスルト初カラ履行シ  
ナイト云フコトヲ人ニ言フヤウナモノデナウ云フコトハアリ得ザイ所ガ商法  
デハナウデナイ範圍ガ廣イカラ債權ト物トノ間ニ何等ノ關係ガナイデモ留置  
權ガアリマスカラ時ニ依ルト或商人ガ日ヲ限リテ注文ヲ受クテ居ル其注文ノ  
品ヲ他ノ商人ニ渡ヘテ買テ賣クナウシテ自己ノ所有ニ歸シタ所デ他ノ商人ガ

通、債權ヲ持テ居ルカラスト云クテ留置ナルルト云フト、注文ヲ受ケテ方デハ直  
グ違約シナケレバナラヌ、ナク云フ場合ニハ是レノ品物ヲ自分ノ爲メ買テ與  
レ、但留置シテハイクナイト云フ特約ヲスルコトガアル故ニ此但書ガアル要  
スルニ商法ニハ新様ニ適用ガ多イシ民法ニハナイカラズレバ商法ニハ規定ガ  
アルガ民法ニハ規定ガナイ  
是ガ留置權ノ條件若クハ場合デアリマス是ヨリ簡單ニ留置權ノ效力ノ御話ヲ  
致シマス

留置權ハ民法ニ於テハ物權ト爲ラ居ル即チ所謂物上擔保デアル物上擔保デ  
アル以上ハ茲ニ三ツノ效力ヲ生ズル第一ハ優先權第二ハ追及權第三ハ不可分  
權デアル順ヲ逐ウテ之ヲ簡單ニ説明致シマス

第一 優先權 留置權ノ效力タル優先權トハ如何ナルモノデアル是ガ各國ノ  
法律大ニ異ナラ居ル民法ニ定メタル所ニ據レバ第一留置權ノ優先權ハ物其  
レ自身ニ付テハ存シテ居ルケレドモ代價ニ付テハ存シナイ其レ故ニ留置權者  
ハ競賣法ニ依テ容易ニ留置物ノ賣却ヲスルコトガ出來ル即チ普通ノ債權者フ

持テザル權利ヲ持テ居ル普通ノ債權者ハ強制執行ニ依ラナケレバ債務者ノ財  
産ヲ賣却スルトハ出來マセズ即チ先ヅ通常ノ場合ニハ確定判決ガイザルシカ  
民事訴訟法ニ定メタル強制執行ニ依ラナケレバオスズ公正證書ガアレバ確定  
判決ハイラヌケレドモ執行文又付與シテ貰ハナケレバオスズ總テ民事訴訟法  
ニ強制執行ノ規定ニ依ル所ガ留置權者ヤンヤコトハイラヌ競賣法ニ依テ直  
チ留置權ヲ賣却スルコトガ出來ル此點ニ債權者ハ時ニ間違フ判決例ガアル  
ウデスケレドモ其レハ競賣法ヲ能ク讀ム所ニ據ル點ニ屬モカイ決シテ確定  
判決ナドヲ要スベキモノデナイ利害關係人ガ之ヲ爭フ場合モ民事訴訟法  
マスケレドモ爭ハザル場合ニハ決シテ判決ハイラナイ競賣法ハ賣却ハ強制執  
行デナイホラテウデアル文ヲ云フ利益ハ持テ居ル併シ其方法デ行テモ代價  
ニ付テハ優先權ハカイ決シテ力若シ他ノ債權者ヲ其事ヲ知テ配當加入ヲ  
申込シテ來ルト其レハ許サザルバカラス唯實際競賣ガ行ズルニ至ル時ニ競賣  
ト賣却スルト出來マス然レバ債權者ハ知悉ノ際開キ賣却代價ヲ取テ之  
ヲコトモアル云フト其レハ優先權ハ持テ居ル者ハ其レ故ニ其レ持テ居ル者

ナモノデアル其レガケル利益シテ與ヘテナイ其代リ物其レ自身ニ付テハ絶體  
ノ優先權ガ認メラル留置權者ハ如何ナル債權者ニモ勝テ他ノ債權者ガ其物  
ニ付テ質權ヲ持タウガ抵當權ヲ持タウガ先取特權ヲ持タウガ留置權者ハ自己  
ガ辨濟ヲ受ケルマデハ決シテ物ヲ離サナイ權利ヲ持テ居ル其レ故ニ間接ニハ  
是非共留置權者ニ先ニ拂ハキバナラヌト云フコトニ爲ル即チ公賣ノ場合ニ於  
テハ留置權者ニ辨濟ヲ爲スト云フコトヲ公賣ノ條件ニスルヲウシナイト読審  
人ガ品物ヲ受取ルコトガ出来ナイ換言スレバ代價ノ中カデ先ヅ留置權者ハ債  
權ダケヲ辨濟シタウシテアトテ他ノ債權者ニ渡スト云フコトニ爲ル其レ故  
ニ留置權ノ效力タル優先權ト云フモノハ我民法ノ規定スル所ニ依レバ頗ル強  
力ナモノデアル尙ホ特別ノ場合ニ特別ノ優先權ガ認メラルコトハ今之ヲ論  
ジマセヌ其レハ果實ニ付テハ先取特權ガ認メラルト私共ハ信ジテ居リマヌ  
併ナガラ其先取特權ハ留置權ノ效力トシテ認メテアル先取特權デスカラ普通  
ノ先取特權ノ規定ニハ從ハナイ留置權ト同ジ順位ニ於テ行ハルル即チ一番先  
ニ行ハルル

第二 追及權 是ハ他ノ物權ト異ナルコトヲ示セヌ留置物ヲ所有者ガ他  
人ニ譲渡シテモ其上ニ如何ナル物權ヲ設テシテモ其レニ對シテ尙ホ留置權ヲ  
行フ是ガ即チ追及權デスル他人ガ權利ヲ取得シテモ其權利ハ留置權ニ負ケル  
ンレデスカラ是ガ即チ追及權デスル其レ故ニ留置權ハ一經ハ留置權ニ負ケル  
第三 不可分權 是モ他ノ物上擔保ト變質モトナナイデスカラ我民法ニテハ  
留置權ノ所デ規定ニ爲テ居テ先取特權抵當權質權ニハ之ヲ專用シテアル是ハ  
留置權ニ特別ナルコトデハナリマヌ其レ故ニ之ニ付テ誤解ガアルトイケル  
イカラテヨリト説明シテ置ク留置權ハ不可分ト云フモノト地役ノ不可分ナドト  
云フモノト同様にモノト思フト大變ニ違ス地役權ハ不可分ナドトハ性質上ノ不  
可分デヌエ當事者ノ意思ヲ以テ分ツモノト出產主ノ之ヲ居シテ留置權其他  
物上擔保ト不可分ト云フモノハ性質上ノ之ヲ許サズ人ヲ拘テ之ヲ拘テ居ル方  
ガ擔保トシテ強力デアルマデスカラ之ヲ法律ニ依テ分テ居ルモノト認メ居ル  
即チ債權者ガ債權ノ一部ノ辨濟ヲ受ケマデヌ留置權ハ全部權ヲ居ルモノ  
物全體ニ付テ留置權ガ存シテ居ル物ハ物全體ガ滅失致シマデヌ其殘部ガ債權

ル擔保物ハ返ス則チ抵當權ノ一部消滅セシムルト斯ク云フ約束ヲシテモ構  
ス、五千圓持ッヲ行クバ五百坪ダケノ抵當權ヲ消滅セシムル三千圓持ッヲ行クバ  
三百坪ダケノ抵當權ヲ消滅セシムルト云フコトニシテモ敢テ差支ナイザウ云  
フコトハ随分アル極テ廣イ目的物ヲ擔保ト致シマスナラバサウ云フコトガアル  
此意味ニ於テ留置權ハ不可分デアアル  
是ガ即チ留置權ノ一般ノ效力デアリマス、他ニ留置權ニ關スル細目ハアリマス  
クレドモ其レハ法文ヲ能ク讀メバ直グニ分リマス



以テ人ヲ殺シ得ル者ハ故殺ノ罪ト爲シ云云下規定ハ殺ムルハ人ヲ殺ス勿レト重ノ禁止條文ニシテ又其第三百六十四條ノ子孫其祖父母父母其妻其妾其衣服ヲ供給セシ其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者云云テハ親屬ハ必要ナル奉養ヲ爲セト又命令條文ナリト謂フカ如キ是ナリ此ノ如ク法律規定ノ外形ニ據リテ以テ一切ノ法條ヲ禁止法ト命令法トノ二ニ區別スヘシトハ說廣ク行ハレタリ然レトモ予輩ノ信スル近世ノ學說ニ依レハ此等ノ條文ハ一ニ禁止法ニシテ又一ニ命令法ナリト假定スルモ禁止ノ反面ニハ必ス命令ヲ含ミ命令ノ反面ニハ又必ス禁止ヲ含ムモノナリ例ヘハ人ヲ殺スヲ禁止スルモトハ場合ニ依リテハ衣食ヲ給セト云フ命令ト爲リ又奉養ヲ命令スルモトハ場合ニ依リテハ有害ナル衣食ヲ給スヘカラスト云フ禁止ト爲ル故ニ犯罪ノ定義ヲ述フルニ當リ刑罰法令ナル文字ヲ用フル以上ハ禁制命令ナル語ハ亦其中ニ包含スルモノナリトスルモ敢テ支障ナキモノトス即チ故ラニ或條文ハ常ニ禁止のニシテ又他ノ條文ハ常ニ命令のナリト解スルハ誤ニシテ此點ニ關スル古賀學士ノ議論ハ判明ヲ缺クモノナリト信ス予輩ノ此議論ハ彼ノ行爲ノ外形ハ積極的ナルモ將タ又消極的ナル

ルモ即チ作爲ヲモ不作爲ヲモ總テ犯罪ノ行爲タルコトヲ得トノ觀念ト同シク全ク表裏相密著ノ關係ヲ有スルモノナリ示ハル條文ハ其條文ニ依リテ第三論點タル禁制又ハ命令シタル事項ノ違反ナル語ニ付テハ予輩ハ其意義ヲ了解スルニ苦ム者ナリ所謂事項トハ如何ナルコトヲ指示スルヤ今殺人罪ノ例ニ付テ言ヘハ人ノ生命ヲ奪フヘキ積極ノ舉動換言スルハ積極的ノ殺人舉動也法ノ禁スル所ナリ又人ノ生命ヲ救フヘキ積極的舉動例ヘハ義務者カ衣食ヲ給與スヘキハ法ノ命スル所ナリ故ニ刑罰命令ノ禁シ又ハ命令スル事項ハ其法令ニ列舉セル積極又ハ消極ノ舉動ニ外ナラス果シテ然ラハ禁制又ハ命令シタル事項ニ違反スル行爲トハ如何學士ハ違反ナル文字自體ニ付テ精細ナル説明ヲ與ヘタルカ故ニ其真意ハ在所ヲ知ラスト難モ惟フニ左ノ二者中其一ニ出テタルヘシ即チ一ハ其禁シ又ハ命令シタル行爲ヲ爲シ又ハ爲サストノ意ニシテ他ノ一ハ當ニ其禁シ又ハ命令シタル行爲ヲ爲シ又ハ爲ササルコトヲ謂フノ意ナラス不法ニ之ヲ爲シ又ハ爲ササルコトヲ謂フノ意ナリ余若シ之ヲ第一ノ意義ニ解スルトキハ其定義ノ中ニ不法ナル意義ノ文字ヲ示ササルハ定義トシテハ明カ

ニ一ノ重要ナル要素ヲ遺脱シタルモノト謂ハサルベカラズ試ニ殺人罪ノ規定ヲ見ルニ唯人ヲ殺シタル者ト云ヘルニ逃キタルヲ以テ刑罰法令ニ示シタル行爲ヲ爲ストノ意ナルトキハ唯人ヲ殺ストノ事ニミ止サル然レトモ縱令人ヲ殺スモ不法ナル分子ノ加ハルニ非テハ決シテ罪ト爲ラス彼ノ官吏ガ死刑ヲ執行シタルカ如キ官兵ガ賊兵ヲ銃殺又ハ慘殺シタルカ如キ或ハ正當防衛トシテ人ヲ殺シタル場合ノ如キ共ニ人ヲ殺スモノニシテ第二百九十二條以下第二百九十條ノ刑罰法令ニ示シタル行爲ナリト雖モ這ハ不法ニ非タルヲ以テ罪ニ非ス他ノ總テノ犯罪亦同シ今無權利者ガ財物ヲ強奪スルハ強盜罪ナルモ公用徵收ノ爲メニスル強奪ハ強盜罪ニ非ス然レトモ其強奪タルヤ一ナリ遺失物ノ拾得ノ如キモ官吏ガ職務ヲ以テ之ヲ押收スル場合ハ罪ト爲ラヌシテ放火ノ如キモ戰爭ノ爲メニスル場合ハ亦罪ト爲ラス此ノ如ク單ニ刑罰法令ニ列舉シタル外形ヲ有スル行爲ト雖モ其不法ニ非タルモノハ罪ト爲ラサルカ故ニ若シ學士ノ所謂違反ナル語ノ意義モシテ單ニ法文ニ示ス行爲ヲ實行スル行爲ト云フ前述第一ノ意義ナランカ不十分ナル文字ナリト謂ハサルベカラズ或ハ若シ學

士ハ之ヲ前述第二ノ意義ニ使用シテ單ニ行爲ヲ實行スルニ止マラス更ニ不法ノ分子ヲ具ヘタル場合ヲ指稱スルモノナラトスルトキハ予輩ノ探ル所ノ學說ト同一趣旨ニシテ單ニ言辭ノ爭タルニ過キタルモノトス然ルニ學士ハ他ノ說明ニ於テ不法ナル分子ヲ一般要素ト爲スノ必要ナシト論述セルヲ以テ予輩ノ所謂犯罪ノ觀念トハ反對ナリト推測セラル而シテ其理由トシテハ權利實行ニ出タル行爲ノ罪ト爲ラサルハ當然ナルカ故ニ之ヲ犯罪ノ條件ト爲スノ必要ナシト云フニ在ルカ如シ凡ソ定義ニ掲タヘキ條件ナルモノハ總テ當然ノモノナラサルベカラヌシテ不當ノモノハ條件トシテ之ヲ定義中ニ掲タヘキモノニ非タルナリ元來定義ナルモノハ或事又ハ物ノ簡單ナル概括の説明ニ過キヌ故ニ犯罪ノ如キモ極端ナル短キ説明ヲ以テセハ犯罪ハ犯罪ナリト謂フノ外ナク又最モ長キ説明ヲ以テセハ刑法全典ヲ舉示スルノ外ナシ故ニ今假ニ刑罰法令ナル四字ニ代フルニ身體生命自由財產名譽ヲ剝奪スルコトヲ制裁トシ議會ノ協賛ヲ經テ主權者ヲ頒布シタル國民行爲ノ準則ナル一句ヲ以テスルモ固ヨリ趣意ニ於テ誤ル所アラヌシテ其字句ノ長短精粗ノ如キハ定義トシテノ當否ニハ

關セサル所ナリトス唯何レノ點ヨリシテ之ヲ觀ルモ當然ノ條件ナルハ故ニ之ヲ定義ノ中ニ加フルニ必要ナリト云フカ如キハ正當ナル議論ニ非サルコトヲ信ス。第四論點タル「行為ナル語ニ付キ學士カ説明セラルル所ノ前後ヲ比考スルハ行為ノ名タルハ禁制又ハ命令ニ違反スル其違反ノ事實ノミヲ謂フモノニシテ彼ノ責任能力ノ問題及ヒ故意過失ナル責任要素ノ問題ハ犯罪ノ要素ニ非スシテ責任問題ト犯罪ノ構成條件トヲ混同スル説ノ如キハ探ルニ足ラスト論斷セラレタリ今此説明ノ當否ヲ論スルニ付テハ少シク責任論ノ發達ヲ述ヘサルヘカラス。往昔歐洲北方ノ風俗殊ニ日耳曼人ノ國法ニ依レハ犯罪ヲ以テ專ラ他人ヲ害スル有害事實ト看做セタルモノナリ故ニ其故意ニ出ラタル力過失ニ出ラタル力又其孰レニモ出ラタル力不可抗力ノ場合或ハ幼者ノ行為ニ係ルハ狂者ノ行為ニ係ルカト云フカ如キ責任條件ノ事ハ一切顧ミナラシ實例アリ我日本止古ニ於テモ亦之ト同一ノ風俗アリテ大抵ノ當否自人ト曰ヘルハ俗ニ白銀ト云

ラ皮膚病ニ罹レル者ヲ謂フ事其之ニ據ルヨリテ其故意又ハ過失ニ出テタルモノモ少カラサルヘシト雖モ等シク有罪ナリトスルモノニシテ純然タル外部ノ事實ヲ觀セバモゾナリ又羅馬ノ或時代ニ於テハ意思ノ問題ニ重キヲ置キ彼ノ被害ニ所關心ニ犯シタル者ハ身ヲ以テ犯シタルニ同シトノ思想カ勝ラ占テ外部ノ事實ハ既遂ニテモ又未遂ニテモ又或ハ同シ關係ニ於テ被害ヲ生スルモ被害ヲ生セタルモ消事實任ハ同一ナリトノ思想行ハレタリ此南北ノ思想ノ歷史上ノ發達ト千七百年代文學革新時代ノ文學革新家ノ意見トノ混同ニ因テテ外部ノ事實ト意思ノ問題ト其間ニ輕重ヲ立ツルコトヲ得ズ共ニ相雜ルヘカラサル要素ナリト云フ如キニ責任條件ヲ以テ今日マテ犯罪條件ナリト論スル學者ノ極メテ多數ナル所以ニ付テハ極メテ複雜ナル理由ノ存スルモノナリ。其一人ハ「法律ニ出テ」云々。此ノ如キ歷史上ノ問題ヲ全ク分離シテ論スルモ若シ責任能力及ヒ要素ノ順ミルコトヲシテ單ニ外部ノ事實ヲ犯罪ナリト論スルモキハ尋常一様ノ出來事(天災地變)ト入ヲ行為ト名キキカニトノ間ニ何等ノ差別ヲモ見出スコトヲ得

テ此カ其年試ニ甲乙家ニ落雷イ爲メニ焼失シ又乙ノ家ニ放火イ爲メニ焼失シ  
タリト假定スヘシ其家ノ焼失ナラズ實ニシテ責任要素ノ論ヲ論酌セザルニ  
キハ此間無何等ノ差別ヲモ見出サコトヲ得ズルハシ均利外部ノ事實ナラト  
雖モ其人ノ行爲ニ出テタリト謂フコトヲ得ルヤ否ヤノ點ハ即チ責任論ニシテ  
他語ヲ以テ言ヘハ責任論ハ論事項ナリ人ニ關スル問題ナルカ又ハ人ニ關スル問  
題トシテ取扱フヘカヲ定ルモノナカテ區別スルノ根據ナラズ故ニ犯罪ナル  
國法上ノ關係ニ於テハ常ニ責任要素ヲ除外シテ之ヲ言フコトヲ得ズルモノト  
ス又現行法ニ於テ其第七十七條第一項乃至第三項ニ規定シタルモノハ即チ責任  
要素タル故意又ハ過失ノ規定ニシテ其第七十八條乃至第八十三條ニ定ムル所  
ハ責任能力ニ關スルモノナリ學士ハ之ヲ以テ果シテ犯罪ノ條件ニ非スト否ハ  
ルカ而シテ之ヲ缺ク者ノ行爲ニ無罪ナリトハ法ノ明言スル所ニ非スヤ又學  
士ハ民法ニ於テ故意又ハ過失ニ出テサル不法行爲ハ賠償義務ナシト云フ規定  
ヲ如何ニ解釋スルカ彼ノ前陳不法ナル分子ヲ犯罪構成條件ニトシテ明言ス

ルト否トハ定義中ノ「違反ナル文字ノ意義如何ニ依リテ別ニ深ク反對スヘキコ  
トニ非ス然レトモ責任問題ハ犯罪構成條件ノ問題ニ非ストノ論ニ至リテハ予  
輩ハ斷シテ之ニ反對セザルヲ得サルナリ

元來責任ナル文字ハ種種ノ意義ヲ有シテ或ハ法律ノ制裁ナル意義ニ用ヒラル  
ルコトアリ例ヘハ民事責任又ハ刑事責任ト云フトキハ多クハ民事制裁又ハ刑  
事制裁ノ謂ナリ又或ハ之ヲ義務ノ意義ニ用フルコトアリ例ヘハ教育家ノ責任  
國務大臣ノ責任又ハ宗教家ノ責任ト云フカ如キ場合ハ義務ヲ指示スルコト多  
シ面シテ學士ノ所謂責任ナル語ハ義務ノ謂ニ非サルコト明瞭ナリ若シ制裁ノ  
謂ナリトセシカ彼ノ刑罰ナル刑事制裁ハ犯罪ノ成立シタル上ニ論スヘキ問題  
ニシテ實ニ學士ノ言フ所ノ如シ然レトモ意思ノ問題ハ犯罪成立後ノ責任問題  
ナリト爲スニ至リテハ前陳ノ學理ヨリシテ之ヲ觀ルモ亦之ヲ刑法第七十七條  
所謂不論罪ノ明文ヨリシテ之ヲ觀ルモ誤レルモノト謂ハサルヘカラス而シテ  
過失ノ論及ヒ責任能力ノ論ニ至リテモ亦同一ナリトス

五五

Nemo plus iulis ad alimntum se ferre potest quam ipse habet.

事雖歸入諸君又與ハシテ終歸入意歸ニ限テハロイヤル國ハ幾曾深ノ意計  
ハロイヤル國ハ與事貴計又ハ終事貴計ノ元ケイチハ是ニハ終事歸就又ハ厚  
長事貴計ヤハ文宇ハ附附ノ意歸モヨクモ與ハ計將ノ歸就ヤハ意歸モ附ヨレ  
罪ハ國々モ之ニ氣後サヤハハ得ヤハハ

イニ張ス然ルイハ書道固殿ハ墨欄聯ヲ引合ハ開闔ニ非タイハ竊ニ喜リヌハ平  
ハイ書イハ家塾中ハ雅習ナリ文筆ハ意餘暇神ニ効リテ暇ニ窮ス氣攪ス一ナセ

狂人号渡三關之川推問

舞臺より下階へ降り、ハ、ゾ、

講師 犯罪人引渡と如何

區域内ニ在ル場合ニ甲國ノ請求ニ因

講師 他國政府ノ請求ナキ場合ニ於テ

外國之犯罪人來自國版圖外者追

キ力故ニ乙國中甲國ノ犯罪者ヲ自國

鋼板金鉄

驅佛人引致ニ關スル條約

八人

キムカ場合ニ申國政府地ニ受取ルコトヲ承諾スルニ其國引渡ニ成立シ  
得ルシテ之ニ付コトハ又該國人ノ母國ニ歸國シ合意ニ付ハハ  
辭師 以上ノ場合ニ於テ乙國ハ其引渡ヲ提供スルヲ否國ハ乙國法律ニ於テ  
主政府地ニ行ヒ得ルヲ否トニ依ルヘク又命令ニ行ヒ得ヘキ場合ニ於テモ  
其國ハ該國ニ基キ之ヲ行フヲ否トニ任意ナルコトナレトモ犯罪者ノ本國ナ  
ル甲國ハ其引渡ヲ提供セラレタル場合ニ之ヲ受取ルノ義務アリヤ

生徒 自國人ナラハ其義務アリヤ  
辭師 何レノ國モ自國ノ犯罪者ヲ刑罰ヲ免レシムルヲ欲セタルヲ故ニ其  
犯罪人ヲ引渡ヲ承諾スヘキコトナレトモ各國ハ獨立權ヲ有シ又犯罪ノ引渡  
ハ雙方ノ合意ニ因リテ行ハルヘキ故ニ法律上ニ於テハ引渡ノ承諾ヲ  
義務ナリト謂フコト能ハサルヘシ然レモ乙國之ヲ追放シ本國ニ返還シ  
タルトキハ甲國ニ於テ之ヲ受取ルノ義務アルコト疑ナシ

講師 甲國ヨリ其犯罪人引渡ノ請求ヲ爲シタルトキ乙國ハ其請求ニ應シテ引  
渡ヲ爲スノ義務アリヤ

生徒 條約ニ定マレ場合ノ外此義務ナシトス唯好意上之ヲ引渡スコトアルハ  
格別ナリ

講師 此點ニ付テハ古來學者ノ説ヲ大別セバ三種ト爲シ得ヘキゾフニド  
フ「ジョシタ」モ「タル」モ「ス」ニ「タリ」ニ「ストリー」等ハ條約ノ存在ス  
ルニ非ナレハ引渡ヲ爲スノ義務ナレトヒグロ「ス」「グ」タル「タ」等ハ引  
渡ヲ義務ト認メタルモノノ如シ然ラ「ブルンチ」ヲ始メ大陸學者中ニハ  
犯罪人引渡條約ニ依ルノ外一般社會ノ習慣(Ca habitus gentis)ニ依リテ於  
テ引渡ヲ要スル場合換言セバ重大ナル犯罪ニシテ其引渡ヲ要求スル國家ノ  
刑事法廷カ公平及ヒ博愛ノ主義ニ離ルコトナク其犯罪者ヲ審理裁判スル  
ニ付テ依估ノ處置ナキ保障アルニ於テハ引渡ノ義務アルモノトモリ然ラハ  
國家カ他國ノ犯罪人ヲ同國ニ請求ニ應シテ引渡スル義務アリト爲ス者ノ理  
由トスル所如何  
生徒 國際關係上ハ義務トシテ國際關係上ハ秩序ヲ紊ル者ヲ引渡スル處分キ  
シムルハ必要アルカ故ナリ

講師 其他ノ理由ヲキヤ  
生徒 凡ソ犯罪ハ其犯罪行為地ナル國家ノ罪科ナルト同時ニ人類社會ノ秩序ヲ紊スノ行為ナルカ故ニ國際團體ニ於テ均シク社會ノ犯罪者ヲ豫防鎮壓スルニ付キ其通ノ利害關係ヲ有シ諸國ハ相互的ニ犯罪ノ鎮壓ニ協力シテ以テ人類社會一般ノ幸福ヲ増進スヘキ義務ヲ負ヒ國際團體ノ正義上及ヒ利害關係上成ルヘタ各國ヲシテ其犯罪者ヲ刑罰セシムルニ盡力スヘタ犯罪者ヲシテ刑罰ヲ免レシムルハ社會一般ニ危險ナルヲ以テ之ヲ刑罰セシムルノ必要アリ此故ニ國家ハ獨立權ノ作用ニ依リ自國內ニ如何ナル者ヲモ在留セシメ之ヲ保護シ得ヘシト雖モ犯罪者ヲ保護スルハ國家ノ庇蔭權ヲ不當ニ擴張スルモノト爲ルヲ以テ國家ハ犯罪人ヲ本國ヨリ引渡スヘキ正當ノ請求アルトキハ之ニ應スヘキ義務アル所以ナリ

講師 犯罪人ト雖モ國家ハ本國ノ請求ニ應ジテ其引渡ヲ爲スノ義務ナシトスル學說ノ理由如何

生徒 領土權ニ基テ結果ナサシムルハ

講師 國家間ニ犯罪人引渡ニ付キ條約上ノ規定アルニ非サレバ他國ヨリスル引渡ノ請求ニ應スルノ義務ナシトスルハ現今一般ニ是認セラルル法則ニシテ其理由トスル所ハ同犯罪者ハ其現ニ在留スル國家保護セハ之ヲ庇蔭シ居ル國家ニ於ケル公ノ秩序ヲ紊シタル者ニ非ス凡テ各國ノ刑法ハ其國ノ安寧ヲ維持スルヲ目的トシ同法ノ第一義ハ領土のモノニシテ國際的ノ性質ヲ有スルニ非ス此故ニ他國ニ於テ重大ナル犯罪トシ嚴酷ニ之ヲ刑罰スル行為モ自國ニ於テハ之ヲ嚴罰セサルコトアルト同時ニ自國ノ重大ト認ムル同一行為ノ犯罪ヲ他國ニ於テ然ラスト爲スコトアルノミナラス一國ニ於テ犯罪ト爲ス事項ヲ他國ニ於テハ犯罪ト認メサルコトアルヘタ又甲國ニ於ケル刑法上ノ罪人カ甲國ノ犯罪者タルニ止マリ乙國ノ刑法ニ觸レサル以上ハ乙國ノ犯罪者ニ非ス然ルニ若シ斯ル甲國ノ犯罪者ヲ乙國ニ於テ引渡ヲ爲スヘキ義務アリトスルハ即チ乙國ハ自國ノ主權即チ庇蔭權ヲ害シテ甲國法廷ノ用ヲ爲スヘシトスル所以ニシテ國際間ノ條約アルニ非サレバ乙國カ斯ル義務ヲ負フヘキモノニ非ナルモノト謂ハサルヲ得ス

講師 甲國ノ犯罪者ヲ乙國內ニ存在する場合ニ於テ甲國ヨリ引渡ヲ請求アルニ當  
リ乙國ト甲國トノ間ニ犯罪人引渡ノ條約規定アルトキハ其規定ニ基キ引渡  
ヲ爲スヘキコトハ乙國ノ義務ニシテ其義務上ノ義務ニシテ其義務規定アルニ  
合フ其請求ニ應ズルコトヲ得タリ若シ其請求ニ應ズル引渡又爲ストキ  
ハ好意上ノ行為トスル外ナク乙國ハ其獨立權ノ作用ニ依リ自願ノ任意ニ  
其請求ニ應ズルヲ妨グル面ニシテ條約ニ基キ引渡ト好意上ノ因テ引渡トノ間ニ  
其引渡ヲ爲スニ付キ現行慣例法上其犯罪者ノ國籍如何ニ依リ其間ニ區別  
スルコトナキ否キ難ク引渡ノ義務ニ關シテ自國ノ義務ニ關シテ區別  
生徒 何國人タルヲ問ハズ其引渡ヲ爲スモ自國ノ義務ニ關シテ區別  
講師 引渡ヲ爲スルコトハ自國ハ自國人民ヲ引渡スヘキコトナク自國人民  
生徒 自國人民ハ引渡スル且政事上ノ犯罪人トシテ引渡スルヲ通例トス  
講師 何故ニ自國人民ハ引渡スルヲ通例トスルヤ  
生徒 國家ニ其臣民ヲ統御スル權利ヲ有ス今他國ニ法律ヲ自國人ニ效力ノ及  
フハ他國ニ在リ故ニ然ル他國ニ於テ犯罪ヲ犯スル自國人ニ歸來スルコト

ハ自國ニ其者ニ對テ支配スルコトヲ得ルカ故ニ引渡ササルナリ  
講師 現今ノ慣例ニ於テ他國ニ於テ犯罪者カ自國人民ニシテ自國ニ歸來リ  
其場合ハ之ヲ刑罰シテ其後爲テ他國ニ引渡スルヲ通常トス其引渡ヲ爲  
スルノ理由ト認メタル所ハ一ハ國家相互間ニ於テ互ニ尊重スルコト互ニ  
他國ノ裁判ヲ信用スルコト未ダ完全ナラズ同時ニ自國國民ヲ他國カ刑  
罰スルコトヲ厭フコトアルト一ハ自國人ヲ保護スルコト同時ニ自國人  
ハ自國ニ對シテ絕對的服從關係ヲ有スルカ故ニ他國ニ於テ犯罪ト雖モ  
必要アルトキハ自國ニ於テ刑罰シ得ヘキカ故ニ之ヲ他國ニ引渡シテ處刑セ  
シタルノ必要ナシトスルニ在リ然レトモ此理由中第一點ニ付テハ近世列國  
間ニ於テ相互的ニ其裁判ヲ信用シ之ヲ爲メ犯罪人引渡條約ヲ締結スルコト  
年々増加シ又條約ニ存セサル場合ニ於テモ犯罪人ヲ引渡スルヲ爲サンコト  
以上一固ヨリ請求ニ裁判ヲ信用ヲ盡シテ基カカ故ニ自國人民ニ限ラズ其  
犯罪者ヲ引渡ササルノ理由ハ單獨ノモノト謂フヘカカ之ヲ保護シテ其刑  
罰ヲ免ルルコトハ不當ノ保護ト謂フアル又得ルニ付テハ凡テ犯罪

其行爲地ニ於テ之ヲ審判スルハ犯罪ノ證據ヲ十分ニ蒐集シテ之ヲ便宜ニ  
自國人民ニ對シテ相互ニ其引渡ヲ爲スハ却テ兩國ノ便宜ナラズ  
犯罪者ニ於テモ之ヲ爲ス正當ナル裁判ヲ受ケルハ事ハ其利益ナル故ニ引  
渡ヲ爲ササルノ理由ハ亦有力ナリト謂フコト能ハス此故ニ千八百九十年英  
米條約ニ於テ相互ニ自國人民ヲ引渡スルコトトシ近來ノ學說モ亦同  
ノ傾向ヲ有スヤミヤミニ此ノ理ヲ認メテ引渡ノ中ニ一層之ヲ明セシメテ  
講師 政事上ノ犯罪トハ如何ニ謂フヤ 蓋シテ憲法ヲ變更シ又ハ政府ヲ顛覆セシム  
生徒 我刑法上ヨリ言ヘバ國事犯罪ハ憲法ヲ變更シ又ハ政府ヲ顛覆セシム  
ルノ犯罪ヲ謂フヤ 然レバ自國人民ノ犯罪ハ自國人民  
講師 政事上ノ犯罪者ハ現行國際公法上他國ニ其引渡ヲ爲ササルヲ法則トシ  
國家間ノ犯罪人引渡條約ニ於テモ之ヲ引渡ノ例外ト爲スヲ通則トス然レニ  
若シ甲乙兩國條約ニ於テ相互ニ其政事上ノ犯罪者ヲ引渡スルハ其引渡約  
則タズトモ其條約ハ有效ナリヤ否ヤ 蓋シテ自國人民ノ犯罪ハ自國人民  
生徒 國際公法ハ其條約ハ有效ナルヲ故ニ無効ナラズト謂フヤ 蓋シテ

講師 無効ナル事凡テ國家間ノ條約ハ當事者間ニ在リテハ當然無効ト云ヒ得  
ルモ其ノ殆トモ犯罪人引渡ニ付テ國家間ニ政事上ノ犯罪者ヲ引渡スル  
コトハ約定期間トモ其義務ヲ負フコトハ條約ナル嚴重ナル形式ヲ以テ自  
己約定シタル合意ハ更ニ新ナル合意ヲ以テ廢止スルハ非サルハ無効ト爲  
コト能ハス 蓋シテ自國人民ノ犯罪ハ自國人民  
講師 現行ノ慣例上國家ハ政事上ノ犯罪者ヲ引渡ササルヲ通則トスルハ何故  
ナリヤ 蓋シテ自國人民ノ犯罪ハ自國人民  
生徒 犯罪ノ性質上各國共通ニ犯罪ハ非サルハ其性質上各國共通ニ犯罪ハ非  
講師 國際公法上ノ犯罪ハ非テ各國共通ニ犯罪ハ非ス然ラハ政事犯罪ニ關シ他  
國ハ政事犯罪モ常事犯罪モ均シテ各國共通ニ犯罪ハ非ス然ラハ政事犯罪ニ關シ他  
國ハ政事犯罪モ常事犯罪モ均シテ各國共通ニ犯罪ハ非ス然ラハ政事犯罪ニ關シ他  
生徒 由リテ之ヲ犯罪トシテ政事犯罪トシテ世界同然ニ犯罪ハ非ス甲國政事上ノ犯罪ハ  
將テ乙國所爲也乙國ニ於テ之ヲ犯罪トシテ世界同然ニ犯罪ハ非ス甲國政事上ノ犯罪ハ  
將テ乙國所爲也乙國ニ於テ之ヲ犯罪トシテ世界同然ニ犯罪ハ非ス甲國政事上ノ犯罪ハ  
將テ乙國所爲也乙國ニ於テ之ヲ犯罪トシテ世界同然ニ犯罪ハ非ス甲國政事上ノ犯罪ハ

罪及モ得爲ス他國ニ於テ實權ヲ行使ス者ハ亦ナキニ非ス又國事犯ノ  
主權國ニ於テ罪ヲ行使ス者ハ其國ニ於テ實權ヲ行使ス者ニ同シ  
右點說明ス不完全に附ハテ得ス要スルニ此點ニ付テハ種種議論アル所  
アル事案ヲ爲事案ルベシテ予テ附說明ヲ附載スルモ然レモ其點ニ關シテ  
附(一) 國事上ノ犯罪其國家ノ憲法及モ政事上ノ組織Organ of the Stateニ反對  
シテ行ハル者ナリ故ニ他國ニ取テ危險ナルモノニ非ス  
附(二) 普通犯罪者ハ互ニ引渡ヲ爲シテ之ヲ刑罰セシムルハ諸國一般ノ安寧ヲ  
維持スル爲メナリ故ニ他國ニ取テ危險ナルモノニ非ス  
附(三) 引渡ヲ請求スル國ト被請求國トハ主義異ニスルモノナリ然レモ本國  
右ニ違ハサル理由ニ基キ並ニ捕獲及モ政事上ノ引渡ヲ爲スル必要ト  
認引渡ヲ請求スル國ト被請求國トハ主義異ニスルモノナリ然レモ本國

政事上ノ犯罪者ヲ現存諸國カ引渡ヲ爲ササルヲ通則トスルモ付テ其理由ト  
シテ諸學者ノ說明ハ一般ニ「アルシテ」ト示シタルト其就「ニ」ニ凡テ政  
事犯ハ本國ニ限リタル主權ノ爭奪者ナリ政治組織ノ變更ヲ目的トシ國家ノ  
自主獨立ナル結果トシテ其内政ヲ如何ニ變更シ何人ノ手ニ於テ主權ヲ行使  
シ又政治組織ヲ如何ニ左右スルモ其國ノ任意ニシテ他國ノ之ニ關シテ是非  
曲直ヲ判定シ之ニ容喙スルノ權利ナク隨テ政事犯ハ本國ニ於テ之ヲ刑罰  
スル上ノ犯罪ト看做スト雖モ其成效スルトキハ却テ犯罪者ノ手ニ同國ノ政權ヲ  
掌握スルニ至ルハ又其主義及モ企圖トナル所ナリ故ニ他國ノ同意ヲ得クモ  
シテアルノミナラス本國ニ取テ其改革ノ必要ト視ルヘキモノアルカ故ニ  
少クモ此點ニ付テハ普通一般ノ犯罪ト其性質ヲ異ニシ他國ハ其事件ニ付テ  
政府又ハ犯罪者ノ何レヲ正當トシテ之ヲ刑罰スルノ權利義務アリ又其意  
見ヲ發表シテ之ニ容喙スルカ地位無立タズルベシトナリ又自國ノ利害關係上  
其犯罪者ヲ逮捕シ本國政府ニ引渡シ以テ刑罰權者ナリト爲シ自國ノ犯罪  
ニ與スル本國ノ人民ノ怒氣ヲ招キ他國ノ輿論勢カヲ得ルベシ

ルモノナシ。其引渡ヲ爲シタル國家ハ開國ニ關係有開國ニ不利無ナル地  
位ニ附ルハ其故ニ此刑罰關係ヲ打撃ス。開國ニ其引渡ヲ爲シタル  
國ニ其所以ニシテ素ト犯罪人引渡ハ國家ノ好意又ハ合意ニ基キ特  
ニ其引渡ヲ性質上何レノ國ニ其政略上斯ル自國ニ不利無キハ引渡ヲ好意上  
行ハス又條約ニ於テモ之ヲ例外ニ爲ス斯意ナリ。其所以ハ其事實ニ於テ  
講師ノ政事犯ト常事犯トノ區別如何其重要ニ關スルモノナシ。其所以ハ  
生徒ノ政事犯ト犯罪ノ目的ヲ以テ爲シ金貨ト否ト依テ區別スルモノナシ。得  
講師ノ此區別ハ各國ノ國法上ニ於テモ一定ノ明劃ナル標準ヲ缺ク。說者  
國ノ實例上一致シタル所ナキヲ以テ現今各國ハ其政略其他ニ基キ事件ノ發  
生スル毎ニ任意ニ處置ヲ爲シ居ル如ク國際公法上一定ノ標準ナシト雖モ現  
今諸國ハ其目的ノ如何ニ依リテ決シタル普通トシテ少ク英國ニテハ政治生  
ノ目的ニ關係スル犯罪ハ一切之ヲ引渡ササル主義ヲ採ル尙此點ニ付テ千  
八百九十二年萬國國際協會ノ「ジュネヴ」會合ニ於ケル決議ハ左ノ如シ。  
第一 犯罪人引渡ハ單斷ニ犯罪地ニ犯罪又ハ犯罪ニ對シテ檢テ行ハル

第二 犯罪人引渡ハ政事上ノ犯罪又ハ刑罰ト混成罪若クハ國際罪ト稱セラ

レタル犯罪ニ付テモ之ヲ行ハス然レドモ暗殺、擄奪、僥倖、使用及ヒ任意且熟  
重ニ出テタル重大ノ殺傷及ヒ其種類ノ全副並ニ放火、燒毀、洪水ニ因ル財產上

ノ加害及ヒ重大ナル盜犯殊ニ兵器ヲ手ニシテ暴虐ノ行爲ヲ以テ之ヲ行ハス  
ル者ノ如キ道德且普通法上ノ最大ナル犯罪ハ此限ニ在リ

第三 反亂又ハ内亂ノ進行中其爭鬭ニ從事シタル黨派ノ一方又ハ他方ニ依  
リ其味方ノ利益ノ爲メニ行ハタル行爲ニ關シタル其行爲ノ憎惡スヘキ野蠻

的ニシテ戰爭法上禁止シタル暴行ナルニ非ナレハ之ヲ引渡シコト能ハス  
又斯ル犯罪者ノ引渡ヲ其内亂ノ終了ニ於テハ其引渡ヲ爲スヘキモノトス

第四 前述諸則ノ適用上政事上ノ犯罪ハ社會全體ノ組織ニ反對シタル犯罪  
ニシテ特定ノ國家ニ反對シ政府ニ一定ノ形態ニ反對スルニ限ラサルモノ

之ヲ包含セストシドレシム。該事犯ト常事犯トノ區別ニ付テ說者爲シテ  
曰ク戰時ニ於テ均シク人ヲ殺傷スルハ戰鬭員ト非戰鬭員ノ資格ニ依リテ









前ノ軍功附金ニ給シキヲ以テ準軍功附金(Peonium quasi castrense)ノ名スリ

第一項 家父權ノ起源

第一 正當婚姻 (Juste mariage)

社會ノ一環ヲ組成シ女子ハ男子ノ有キル社會上ノ地位ヲ得ルヲ要ス





續人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從ヒ直ニ祖父母ノ推定家督相續人タル資格ヲ有セシガ故ニ嫡孫ト稱シ他人ヲ以テ相續セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子女ノ死繼相續ヲ爲シタルトキハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スルキ場合ニ非ザレハ繼令嫡孫アルモ養子ヲシテ相續セシムルコトヲ得ルモノトス(同明治三十五年(元)第六百三十二號家督相續一頁事務判決)

四九 毆打 帳簿ヲ取回サンカ爲メ人ニ組付キタル所爲ハ人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘタルモノニシテ刑法ニ所謂毆打ノ所爲ナリ(同明治三十五年(元)第一號刑事部宣告)

五〇 一團ノ物件ニ對スル數箇ノ冒認罪ハ他人ノ所有物ヲ自己ノ所有ナリトシテ賣買交換ヲ爲スニ因リテ成立スルモノトス隨テ犯人カ他人ノ所有ニ屬スル或一團ノ物件ヲ冒認シテ販賣又ハ交換セシト發意シ其意思ヲ實行スル爲メ數度ニ賣買交換ヲ爲シタル場合ト雖モ其賣買交換ニシテ獨立ノ行爲ナル以上ハ箇箇別別ニ犯罪ヲ構成ス(同明治三十五年(元)第二四九號刑事部宣告)

告部宣

五一 公廷設備ノ箱ト被告人ノ自由 公廷ニ設備セル箱ハ公廷取締ノ爲メ被告人ニ一定ノ席ヲ與ヘタルモノナリトス隨テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルモノニ非ス(同明治三十五年(元)第二二五號刑事部宣告)

五二 複寫ノ性質 複寫ハ文字ヲ紙上ニ表出スルノ一方法ニシテ文字ヲ手記スルモノナレハ筆記ト全ク其作用ヲ同シウス隨テ此方法ニ依リテ作成シタル書類ハ筆記ヲ爲シタル書類ト其效力同一ナリ(同明治三十五年(元)第九二號刑事部宣告)

五三 官署印ノ押捺ナキ豫審圖書ノ效力 豫審圖書ニ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハストノ記載ナキ地出張先ノ記載アリテ出張先ニ係ルコト明カナル以上ハ所屬官署ノ印ヲ押捺カシト雖モ該圖書ハ有效ナリ(同明治三十五年(元)第一七〇號刑事部宣告)

五四 執達吏ノ代理人ノ作成シタル圖書ノ性質 有體動產ノ差押ヲ爲シ其圖書ヲ作成スルハ執達吏ノ職務ニシテ執達吏ハ右等ノ職務ヲ自己ノ責任ヲ以

二五

三明

五五 刑事訴訟法第三百十一條第三項末段ノ規定ト第二十一條ノ二ノ規定トノ關係  
刑事訴訟法第三百十一條第三項末段ハ其總則タル法條刑事訴訟法第二一條ノ二ノ改正アリタル爲メ自然改廢ニ歸シタルモノトス隨テ證人訊問圖書ニハ證人署名シ能ハサルニ由リ書記代署シタル旨ノ附記アル以上ハ其捺印ヲ缺キタル事由ノ記載ヲ要スヘキモノニ非ス  
明治三十三年四月三十日  
十二月二十六日  
○擔任講師ノ變更  
高等科行政法擔任講師清水學士及ヒ民法擔任講師遠藤學士ハ公務多忙ノ爲メ辭任セラレタルニ由リ民法ハ板倉學士之ヲ擔任スルコトト爲リ行政法ハ新ニ文部省參事官法學士松浦鐵次郎氏ヲ聘シテ其擔任ヲ囑

(注意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

—

一金

但三十六年度高等科

月分月謝

月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年  
月  
日

月  
日

**B**

和佛法律學校會計局御中

和佛法律學校會計局御中

特別科講義錄

第一號  
四月一日  
發行

○府縣制

法學士 松浦鐵太郎

○市制町村制

法學士 松浦鐵太郎

○人事訴訟手續法

法學士 松岡義正

○戶籍法

法學士 島田鐵吉

○供託法

法學士 塚田達二郎

○日本法律總論ニハ○郡制(松浦學士)○特許、意匠、商標法(杉本學士)○非訟事件手續法(橫田學士)○不動產登記法(鈴木學士)○就賣法(吾孫子學士)○租稅法(若槻學士)○著作權法(水野博士)○公證人規則(松岡學士)○執達吏規則(仁井田博士)ヲ掲載ス○毎月一回發行○月謝金十五錢

明治三十六年三月廿六日印刷  
明治三十六年三月廿七日發行  
(定價每部拾五錢)

東京市牛込區中込町十番地

發行所 萩原敬之

東京市牛込區丸根町三番地

發行所 小宮山信之

東京市芝區久保町九番地

發行所 金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)

三月 和佛法律學校

(明治三十二年十二月九日內務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三號勅諭認可 毎月廿三日至廿六日五  
十三日三十五日十六日十八日廿一日廿三日廿五日至廿六日廿八日  
三十一日)